

2024年5月13日現在

※掲載の専門研修プログラムについては、これから一次審査、二次審査を行う予定となっております。そのため、審査結果により、掲載内容に変更・修正が生じることがございますこと、ご理解ご了承くださいたく存じます。

2025年度

新専門医制度 内科領域プログラム

順天堂大学内科専門研修プログラム



順天堂大学 内科

順天堂大学医学部内科専門医研修プログラム

目 次

1. 理念と使命における特性	1
2. 内科専門医研修はどのように行われるのか	3
3. 専攻医の到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)	11
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	11
5. 学問的姿勢	12
6. 医師に必要な倫理性、社会性	12
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方	13
8. 年次毎の研修計画	13
9. 専門研修の評価	14～15
10. 専門研修プログラム管理委員会	15～16
11. 専攻医の就業環境(労働管理)	17
12. 研修プログラムの改善方法	17
13. 専攻医修了判定	17
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと	18
15. 研修プログラムの施設群	18
16. 専攻医の受け入れ数	18
17. Subspecialty 領域	19
18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	19
19. 専門研修指導医	19～20
20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等	20
21. 研修に対するサイトビジット(訪問調査)	20
22. 専攻医の採用と修了	20～21
23. 順天堂大学内科研修プログラム内容・施設詳細	22～

【添付】

別表：内科専攻研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について

* 文中に記載されている資料『[専門研修プログラム整備基準](#)』『[研修カリキュラム項目表](#)』

『[研修手帳（疾患群項目表）](#)』『[技術・技能評価手帳](#)』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください

1. 順天堂大学内科専門研修プログラムの概要

1. 理念と使命における特性

① 理念[整備基準:1]

- 1) 内科専門医制度における専門医研修の基本理念は、指導医の適切な指導の下で、カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得することです。

本プログラムでは、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とし、順天堂各附属病院や地域医療支援病院において、臓器別内科系 subspecialty 領域の専門医にも共通して求められる内科領域全般の診断能力を養成し、高度な医療や先進的な医療を経験することが可能です。また、地域医療を担う連携施設における研修では、医療事情を理解し、実情に合わせた実践的な医療を行うことで、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも習得して、様々な環境下で全人的な内科医療を実践することが可能になるものと考えています。順天堂においては、内科領域全般にわたる幅広い知識の習得と多くの実践を行いながら、内科全般の診療能力を身につけ、臨床能力獲得後は内科専門医として、臓器別内科系 subspecialty 領域の研鑽と並行して、全人的な内科医療が実践できる人材の育成を行っていきます。

② 専門領域の使命[整備基準:2]

- 1) 内科専門医として、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、著しく専門医性に偏ることなく、それぞれの場に応じて、最新の医療を提供すると共にチーム医療を円滑に運営していくこととなります。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行っていきます。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行っていきます。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究や基礎研究を実際に行う契機となる研修を行っていきます。

③ 特性

- 1) 本プログラムは東京都の順天堂大学附属順天堂医院を基幹施設として、東京都区中央部医療圏を基盤に附属病院を中心とした東京都区中央部医療圏、区東部医療圏、区西北部医療圏、埼玉県の東部・南部医療圏、千葉県東葛南部医療圏、静岡県駿東田方医療圏に加え、大学病院の特性から近隣医療圏や、高度医療のため他の医療圏からの流入にも対応しています。また、それに伴った各施設の守備範囲や地域の実状に合わせて実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則、基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間あるいは基幹施設 1 年間+連携施設 2 年間の 3 年間になります。

※プログラム内容については、本人の希望と進捗状況により対応しています。

- 2) 本研修プログラムでは、症例の経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつ、一人一人の患者の全身状態や社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する能力を涵養することを到達目標にします。
 - 3) 基幹施設である順天堂大学医学部附属順天堂医院での専攻医研修 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」（日本内科学会 HP 参照）に定められた 70 疾患群（資料 2 参照）のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験した場合は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLLER)に登録できます。さらに専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、日本内科学会病歴要約評価ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
 - 4) 各連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として専門研修期間中の 1～2 年の間は、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことにより、内科専門医に求められる役割を実践します。
 - 5) 専攻医 3 年修了時（基幹施設＋専門研修施設群各 1 年間以上）で「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLLER)に登録できる可能な限り「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。
- ④ 専門研修後の成果【整備基準 3】
- 1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
 - 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な地域での内科系救急医療を実践します。
 - 3) 病院での総合内科（generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
 - 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で総合内科（generalist）の視点から、全人的・臓器横断的に診断・治療を行う基本的診療能力を有する内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設で臨床経験を積むことにより、各人のキャリア形成やライフステージを見据えて様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか 整備基準:4~5,13~16,30]

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた3年間の専門研修（専攻医研修）で育成されます。
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質に加えて、日本内科学会が定める「[内科専門医研修カリキュラム](#)」（別添）にもとづく内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で提示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会は内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（[J-OSLER](#)）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認によって医目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修1年

- 症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の研修ログに登録することを目標とします。
- 指導医は研修ログの登録内容を確認し、適切な経験と知識の習得ができていることが確認できた場合に承認をし、不十分と考えた場合はフィードバックと指導を行う。
- 専門研修修了に必要な必要な病歴要約10編以上を記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年

- 疾患:カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上を(できるだけ均等に)経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録することを目標とします。

総合内科 I 1 疾患群のうち 1 疾患群以上

総合内科 II 1 疾患群のうち 1 疾患群以上

総合内科 III 1 疾患群のうち 1 疾患群以上

消化器 9 疾患群のうち 5 疾患群以上

循環器 10 疾患群のうち 5 疾患群以上

内分泌 4 疾患群のうち 2 疾患群以上

代謝 5 疾患群のうち 3 疾患群以上

腎臓 7 疾患群のうち 4 疾患群以上

呼吸器 8 疾患群のうち 4 疾患群以上

血液 3 疾患群のうち 2 疾患群以上

神経 9 疾患群のうち 5 疾患群以上

アレルギー 2 疾患群のうち 1 疾患群以上

膠原病 2 疾患群のうち 1 疾患群以上

感染症 4 疾患群のうち 2 疾患群以上

救急 4 疾患群のうち 4 疾患群以上 計 45 疾患群以上の経験を到達基準とする。

- また、専門研修修了に必要な病歴要約 29 編をすべて記載し、日本内科学会専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します。
- 技能:疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度:専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修 3 年

- 疾患:主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例を経験することを目標とします。修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群以上のうち 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができる)を登録します。
- 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(J-OSLER)による査読を受け、受理されるまで改訂を重ねます。この過程は論文のピアレビュー過程と同様に行うことにより、論文投稿のプロセスを経験することができます。
- 技能:内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うようにします。
- 態度:専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。なお、研修ログの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

内科研修プログラムの週間スケジュール

循環器内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	受け持ち患者情報の把握						
	朝カンファレンス		教授回診 (CCU)		朝カンファレンス		
	病棟研修						
	各種検査・手術 (心エコー、心臓リハビリ、画像診断、冠動脈検査・治療、弁膜症治療、不整脈治療など)						
	初診外来・救急当番 (午前・午後併せて2~3回/月)						
午後			教授回診 (チャート・病棟)				
	病棟研修及びカテーテル検査・治療						
	各種検査・手術						
	グループ回診	心臓血管外科との 症例検討会	内科症例検討および 剖検例報告			グループ回診	※
			ミニレクチャー				
			医局会				
			小児循環器との 症例検討会 (4回/年)				
初診外来・救急当番 (午前・午後併せて2~3回/月)							
見習い当直 (上級医師について2~3回/月) 終了後、当直業務 (2~3回/月)							

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

消化器内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟研修						
	検査(上下部内視鏡検査・腹部超音波検査など)・治療(ラジオ波治療など)						
午後	病棟研修		医局会		病棟研修		
	各種検査・治療 (内視鏡・血管造影・ラジオ波など)		教授回診		各種検査・治療 (内視鏡・血管造影・ラジオ波など)		
	消化管カンファ	病棟グループカンファ ・回診		病棟研修		内科・外科合同 カンファ (不定期)	
	胆膵カンファ			各種検査			
	内視鏡 (病理) カンファ			肝臓カンファ			
	Interventional Oncology カンファ			肝生検カンファ			
当直業務 (2~3回/月)							

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

呼吸器内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前		気管支鏡検査	チャート回診	気管支鏡検査	気管支鏡検査	若手抄読会	
	胸部超音波検査			胸部超音波検査			
	気道過敏性検査						
	気管支鏡検査						
病棟研修							
午後	病棟研修		医局会	病棟研修		※	※
	病棟グループカンファ ・回診	(病棟グループカンファ 回診)	病棟研修				
			(病棟回診)				
			外科症例検討会				
			放射線治療検討会 (隔週)				
			症例検討会(隔週)				
		医局勉強会 (抄読会含む)	(外科病理検討会)				
当直業務(2~3回/月)							

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

腎・高血圧内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟研修						
	月1回腎臓内科 マニュアル: オリエンテーション	手術 (バスキュラー・アクセス、 PDカテーテル挿入)		教授総回診 症例カンファレンス 病棟回診		グループカンファレンス	※
				手術 (バスキュラー・アクセス、 PDカテーテル挿入)			
病棟研修							
午後	グループカンファレンス	腎生検 (週2~3件)				※	※
		チャート回診	レクチャー (週1回)	医局会			
				腎生検カンファレンス			
				抄読会 (隔月)			
				腎病理カンファレンス (不定期)			
当直業務(平日1回/週、土日2回/月)							

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

膠原病・リウマチ内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
	受け持ち患者情報の把握		教授回診 (症例カンファレンス)	受け持ち患者情報の把握			※
午前	病棟研修		教授回診 (病棟ラウンド)	病棟研修			
			医局会				
午後	病棟研修					※	
	病棟グループ回診	外来処置	研修医抄読会	病棟 学生・初期研修医の指導	外来陪席・ 関節超音波		
			医局会・症例検討会・ 研究会	膠原病に関する講義			
	当直業務						

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

血液内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟研修						
	グループ回診						
			8:30～ モータリティー カンファレンス (月1回)				
			8:30～抄読会				
午後	病棟研修					※	
	グループ回診						
			12:15～医局会				
			13:00～ リサーチカンファレンス				
			13:45～17:00 教授総回診				
			18:00～ 4病院合同症例相談会 (1回/月)				
			19:00～各種セミナー (開催週のみ・不定期)				
当直業務							

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

* 病棟研修にはグループカンファレンスや骨髄検査も含まれます

* 曜日によって外来陪席がはいる場合があります

糖尿病内分泌内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟研修						
		10:00~教育入院 講義					
午後	病棟研修					教育入院講義（年数回） 患者会（年数回）	*
	12:10~勉強会				12:00~勉強会		
	14:00~総回診	14:15~教育入院 他職種合同カンファ		グループ回診	グループ回診		
	18:00~抄読会、 内分泌・甲状腺カンファ、 症例検討会、医局会、 研究検討会	19:00~内分泌代謝 up date（不定期）					
当直業務							

*日曜日：プロジェクト検討会（年1回）

*病棟研修には、以下の項目が組み込まれています。

1. 学生・初期研修医の指導
2. 初診外来もしくは頸動脈・甲状腺エコー（週1~2回）
3. クルズ（週1~2回）

*地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは、それぞれの開催に応じて参加します。

*平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診療のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

脳神経内科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	朝カンファ（8:00-8:45）				新患診察 （8:00-8:50）		
	グループ回診（9:00-）				総回診 （9:00-10:30）		
	病棟研修						
	神経免疫疾患回診			パーキンソン病 device aded therapy（DAT） 回診	weekly summary discussion （10:30-11:00） Case conference （11:00-12:00） 医局会（12:00- 12:30）		
午後	病棟研修				総回診 （14:00-16:00） Clinico pathological conference(CPC) 1回/2ヶ月		
	脳卒中カンファレンス				パーキンソン病DATカン ファレンス		
当直業務（平日1回/週、土日1回/月）							

*脳卒中急性期等神経救急対応は適宜診療参加

*病棟研修中に、脳卒中、変性疾患クルズ開催します

*神経学セミナー（他学の講師をお招きし、最新のトピックスに関する講義；月1~2回）

*地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

*平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診療のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

総合診療科

* ピンクの部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日	
午前	病棟研修							※
	当直振り返りカンファレンス・朝クルズ					勉強会（NEJMケースレポート、英文論文の読み書き講座など）		
	感染症ラウンド			感染症チームカンファレンス	感染症ラウンド			
	腹部エコーまたは上部消化管内視鏡検査	プライマリケア外来、または一般外来（週1～2回）						
午後	病棟研修							※
				回診				
				症例検討会 (月1回感染症検討会)	病棟回診			
	外来カンファレンス							
				医局会・抄読会・リサーチカンファレンス				
	平日当直（2回/月）、土曜当直（1回/月）、日曜当直（1回/月）							

※病棟研修、外来には学生、初期研修医の指導を含みます。

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

4) 臨床現場を離れた学習

- ①内科領域の救急対応、②最新のエビデンスや病態・治療法について各科でセミナー等が定期的開催されているので、それを聴講し学習します。
 - ②日本専門医機構が定める専門医共通講習会と同様の内容とし、院内で開催される医療安全、感染対策、医療倫理講習会等の講習会へは必ず出席し学習します。
 - ③内科系学術集会、指導医講習会、JMECC(内科救急講習会)等においても学習します。
- なお、それぞれ受講歴は登録され、充足状況が把握されます。

5) 自己学習

[内科専門研修カリキュラム](#)にある疾患について、各内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。また、内科学会雑誌のセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段として活用します。原則、週に 1 回、指導医と Meeting を行い、自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であるため、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。大学院へ進学しても専門医資格が取得できるよう、プログラムを適切に調整するようプログラムが作成されています。

7) Subspecialty 研修

それぞれの専門医像に応じた研修プログラムを準備しています。

条件を満たせば、Subspecialty の研修に比重を置く期間を設け重点的に研修することも可能です。

また、内科と特定の Subspecialty を連動して研修（平行研修）し、早期の Subspecialty 専門医を目指すことも可能とします。大学院進学を検討する場合についても後述を参照して下さい。

3. 専門医の到達目標(項目 2-3)参照[整備基準:4,5,8-11]

1) 3 年間の後期研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- ① 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験することとします。
- ② 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ症例(定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録しそれを指導医が確認・評価することとします。
- ③ 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として日本内科学会病歴要約評価ボードへ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこととします。
- ④ 技能・態度:内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得することとします。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)を参照してください。

2)専門知識について

[内科専門研修カリキュラム](#)は総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。順天堂大学医学部附属順天堂医院には総合診療科を含めた 9 つの内科系診療科があり、救急疾患に関しては、各診療科および救急科で対応しており、内科領域全般の疾患を網羅できる体制が敷かれています。

更に、順天堂大学の各附属病院をはじめとして多くの専門研修施設群を構築することにより、より総合的な研修や地域における医療体制が可能となり、各人の進路に沿った研修内容をしっかりとした指導医のもと行うことが可能となります。

また、患者のニーズに対応すべく、地域や県外病院での研修を通じて幅広い活躍を推奨します。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準:13]

- 1) 患者カンファレンス・グループ回診・：患者の申し送り、回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。
- 2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けると同時に、受持以外の症例についても見識を深めます。
- 3) 症例検討会（原則毎週）：症例検討会:診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。
- 4) 抄読会・研究報告会：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行う。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。
- 5) 診療手技セミナー：診療科によっては、随時手技のセミナーを行っています。
- 6) CC、CPC：興味深い症例、死亡・剖検症例、難病・希少症例について、病理診断等の検討を行います。
- 7) 指導医ミーティング：週に 1 回、指導医とのを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
- 8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢[整備基準:6,30]

- 1) 患者から学ぶという姿勢を基本とし、
- 2) 科学的な証拠に基づいた診断、治療を行う (EBM: evidence based medicine)、
- 3) 最新の知識、技能を常にアップデートし継続する (生涯学習)、
- 4) 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を推奨します。
日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、
- 5) 症例報告等を通じて深い洞察力を磨くといった基本的な学問的姿勢を涵養するとともに研究発表、論文の作成などを通じて、科学的思、病態に対するさらなる研鑽を内外へ広く情報発信することも医師としての活動としてするものとします。

6. 医師としての倫理性、社会性など[整備基準:7]

医師としての日々の診察や活動とともに、内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されたため、以下の要件を患者への診療を通じて医療現場等から学んでいくものとします。

- 1) 患者とのコミュニケーション能力、
- 2) 患者中心の医療の実践、
- 3) 患者から学ぶ姿勢、
- 4) 自己省察の姿勢、
- 5) 医の倫理への配慮、
- 6) 医療安全への配慮、
- 7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)、
- 8) 地域医療保健活動への参画、
- 9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力、
- 10) 後輩医師への指導

順天堂医院(基幹病院)において症例経験や技術習得において、単独で履修可能であるが、地域医療を含めた複数の施設で研修を実施することで、多岐にわたる患者の診察や多くのコミュニケーションをとることで、1施設のみでは経験できない経験を積むことを目的に複数施設での研修を行うように全てのコースにおいて連携施設(各附属病院、その他の連携施設)での研修期間を設けています。(詳細は項目8を参照してください)。

複数の連携病院で研修を行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献します。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修し、入院症例だけでなく外来での経験となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。

施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。また、インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。

医療チームの重要な一員としての責務(患者の診療、カルテ記載、病状説明など)を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得していくとともに研修中は後輩医師(研修医・医学生)への教育、指導を行います。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

[整備基準:25,26,28,29]

順天堂大学(基幹病院)において全ての症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、その経験を求めるものとします。

地域医療を経験するため、連携施設(各附属病院等)での研修期間を設けています。

連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナー等へも参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に1回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

8. 年次毎の研修計画 [整備基準:16,25,31]

本プログラムでは、専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて個別の研修プログラムに沿って研修することが可能です。

将来の Subspecialty が決定している専攻医は不足している症例を経験するため一定の期間希望する内科ローテーションします。

一方で、Subspecialty が未決定あるいは、総合内科専門医を目指す場合は多くの内科をローテーションするようなプログラムにします。

原則、専攻医は自分が専門とする各内科に所属すると同時に専攻医として、後期研修センターに登録し、3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを一定期間ローテートします。

さらに順天堂大学のプログラムにおいては、多くの附属病院および連携施設を有することから、地域医療を中心とした診療を重視し、一定期間ローテーションすることができます。

いずれの場合も遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5-6年で内科専門医、7-8年で Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

① 将来の subspecialty 領域が決定している場合 (P21 参照)

希望する臓器別内科系 subspecialty 領域を重点的に研修する場合、専攻医研修の2年目までに必要とされる症例を揃えつつ、早くから目指す専門領域で研鑽、subspecialty の初期トレーニングを行うことを目標とします。また、内科と特定の Subspecialty を連動して研修(平行研修)し、早期の Subspecialty 専門医を目指すことも可能です。通常より早く subspecialty 領域の研修を開始し、理想的医師像とする指導医や上級医師を接することで、内科医としての基本姿勢のみだけでなく、目指す領域の知識、技術を学習することにより、専門医として自覚することができ、より内科専門医取得への motivation を強化することができます。

専攻医の期間は、内科研修を継続して臓器別 subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。3か月間を基本として他の内科での研修を行い、原則1年以上は専門研修施設群のなかの施設での研修を行うものとします。なお、診療科の研修期間等については、不足している研修科を中心に決定するものとし、研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する臓器別内科系 subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。

大学院進学を希望する専攻医の先生には、大学附属病院の機能（研究・教育）として、医学・臨床の推進に重要な役割を担うため、臨床と研究を同時進行させることも可能です。個人の進捗状況により大学院の時期を選択したうえで、効率良く内科研修ができるよう配慮します。

なお、大学院進学の許可はプログラム委員会において判定されます。

② 将来の subspecialty 領域が未定な場合（P22 参照）

総合内科(generality)の専門医を目指す場合や、将来の subspecialty が未定な場合は、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的とし専攻医(後期研)修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。

原則として3ヵ月を1単位として、1年間に4科、3年間で全ての内科9科をローテーションします。また、地域医療を経験するため、原則1年以上は専門研修施設群のなかの施設での研修を行ものとし、診療科の研修期間等については、不足している研修科を中心に決定するものとします。

研修する連携施設等の選定は、担当指導医が専攻医と面談のうえ、プログラム統括責任者が決定します。

③ 連携施設中心に研修を行う場合（P23 参照）

希望する subspecialty は決定しており、基幹病院である順天堂大学附属順天堂医院以外の附属病院、または連携施設を中心に、総合内科医として必要な知識や経験をしていきます。附属病院および連携施設でも十分な指導体制を敷いているので、専門研修修了に必要な症例を経験することが可能です。但し、研修する施設や内容の選定に関しては、プログラム統括責任者が専攻医と面談の上、決定していくものとします。

9. 専門医研修の評価 [整備基準:17-22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。

また、技術・技能についての評価も行い、年に1回以上、日標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行うようフィードバックの体制を整え対応します。

臨床研修センターおよび管理課は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的評価(基準と時期)

専攻医研修3年目の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの終了判定が行われます。

この専攻医研修修了後に実施される内科専門医試験に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 多種評価などの評価

専攻医の研修態度等については、指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ(病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など)から、接点の多い職員5名程度を指名し、社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を毎年3月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

④専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、指導医ミーティングの際に、指導医と研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。なお、アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会 [整備基準:35～39]

1) 内科研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理する内科研修プログラム管理委員会を順天堂大学に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

順天堂大学プログラム委員会・委員一覧

担当者	役割	備考
綿田 裕孝	プログラム統括責任者・委員	代謝・内分泌分野責任者
今 一義	プログラム副統括責任者・委員	消化器分野担当
横山 美帆	プログラム副統括責任者・委員	循環器分野担当
南野 徹	プログラム管理委員会・委員	循環器分野責任者
伊佐山 浩通	プログラム管理委員会・委員	消化器分野責任者
永原 章仁	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当
池嶋 健一	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当
高橋 和久	プログラム管理委員会・委員	呼吸器・アレルギー分野責任者
鈴木 祐介	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野責任者
田村 直人	プログラム統括責任者・委員	膠原病分野責任者
安藤 美樹	プログラム管理委員会・委員	血液分野責任者
服部 信孝	プログラム管理委員会・委員	神経分野責任者
内藤 俊夫	プログラム管理委員会・委員	総合内科・感染症分野責任者
林 英守	プログラム管理委員会・委員	循環器分野担当、医局長
深田 浩大	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当、医局長
佐藤 匡	プログラム管理委員会・委員	呼吸器・アレルギー分野担当、医局長
合田 朋仁	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野担当、医局長
木原 正夫	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野担当、副医局長
箕輪 健太郎	プログラム管理委員会・委員	膠原病分野担当、医局長
築根 豊	プログラム管理委員会・委員	血液分野担当、医局長
池田 富貴	プログラム管理委員会・委員	内分泌・代謝分野担当、医局長
常深 泰司	プログラム管理委員会・委員	神経分野担当、医局長
齋田 瑞恵	プログラム管理委員会・委員	総合内科・感染症分野担当、医局長
飯田 雅	研修委員長	代謝・内分泌分野担当

連携施設担当者

担当者	役割	備考
玄田 拓哉	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属静岡病院
森本 真司	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属浦安病院
梁 広石	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター
下 泰司	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属練馬病院
藤井 充弘	連携施設 管理委員会・委員	江東病院
鈴木 聡子	連携施設 管理委員会・委員	東部地域病院
山田 俊夫	連携施設 管理委員会・委員	東京臨海病院
家永 浩樹	連携施設 管理委員会・委員	越谷市病院
高野 利実	連携施設 管理委員会・委員	がん研究会有明病院
大江 裕一郎	連携施設 管理委員会・委員	国立がん研究センター中央病院
内藤 陽一	連携施設 管理委員会・委員	国立がん研究センター東病院
放生 雅章	連携施設 管理委員会・委員	国立国際医療研究センター病院
上出 庸介	連携施設 管理委員会・委員	国立病院機構相模原病院
出雲 雄大	連携施設 管理委員会・委員	日本赤十字社医療センター
杉本 耕一	連携施設 管理委員会・委員	JR 東京総合病院
藤ヶ崎 浩人	連携施設 管理委員会・委員	東京都立墨東病院
細谷 弓子	連携施設 管理委員会・委員	榊原記念病院
船崎 俊一	連携施設 管理委員会・委員	埼玉県済生会川口総合病院
長浜 正彦	連携施設 管理委員会・委員	聖路加国際病院
星野 慎一	連携施設 管理委員会・委員	沖縄県立北部病院
上野 博則	連携施設 管理委員会・委員	国立病院機構東京医療センター
塩尻 俊明	連携施設 管理委員会・委員	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
小原 まみ子	連携施設 管理委員会・委員	亀田総合病院
大谷 弘	連携施設 管理委員会・委員	公立岩瀬病院
井村 洋	連携施設 管理委員会・委員	株式会社 麻生 飯塚病院
嶋田 一成	連携施設 管理委員会・委員	医療法人積仁会 島田総合病院

2) その他の委員会

履修すべ内科専攻医の修了要件において、調整等の必要と思われる案件が生じた場合は、それに対応する委員会をプログラム管理委員会のもと、適宜設置し適用に応じた担当者を配置するものとします。

- ◆内科専門医連絡会（J-OSLER 関連担当）として各診療科に設置

3) 指導医一覧

J-OSLER 参照

11. 専攻医の就業環境(労務管理) [整備基準:40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えとともに、労働基準法を順守し順天堂大学の医就業規則及び給与規則に従うものとします。

専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と安全衛生管理室（健康管理）等で管理してき、健康維持を害する報告があった場合は、随時対応致します。

特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は、校医およびメンタルクリニック医師等のカンセリングを行っていきます。

専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることになります。

プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価していきます。

※本プログラムでは基幹施設、連携施設に関わらず、基幹施設の順天堂大学の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースを標準とするものではありません。

各施設の個々のプログラムにおいて事情は様々であり、それぞれのプログラム内で協議され、いろいろなケースが有ることが想定されますが、各施設も専攻医にとって配慮のある明確な諸規則を用意し、説明する必要があることを順守するものとします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準:49～51]

定期的に研修プログラム管理委員会を順天堂大学附属病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを含めた専攻医について評価し、問題点を等明らかにします。

また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させていきます。

さらに研修プロセスの進捗具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直していきます。

なお、専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受けプログラムの改善に繋がります。

13. 専攻医修了判定 [整備基準：21,53]

日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録する必要があります。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適正に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの終了に向けて行うべきこと

[整備基準:21,22]

専攻医は様式（未定）を専門医認定申請年の1月末までにプログラム管理委員会に送付するようにしてください。一方で、プログラム管理委員会は3月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。

要件が揃っている専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準:23～27]

順天堂大学が基幹施設となり、順天堂大学の附属病院をはじめとした施設で専門研修施設群を構成することにより、総合的な研修ばかりでなく、各領域の専門性に特化した研修、各人の将来に適した内容を選択することが可能となります。

16. 専攻医の受入数

順天堂大学における専攻医の上限（学年分）は合計39名です(2023年度実績)。また、担当指導医ひとりが担当できる専攻医の上限は3名です。

- 1) 順天堂大学に卒後3年目で内科系講座に入局した後期研修医(専攻医)は過去3年間併せて約120名で1学年37～39名の実績があります。
- 2) 剖検体数は43体、2021年29体、2022年27体、2023年度28体です。
- 3) 経験すべき症例数の充足について

表. 順天堂大学医学部附属順天堂医院診療科別診療実績

診療科名	2023年度 入院患者のべ人数	2023年度 外来患者のべ人数
総合診療科	471	25,955
消化器内科	3,248	80,625
循環器内科	2,428	75,043
糖尿病・内分泌内科	370	49,779
腎・高血圧内科	685	34,664
呼吸器内科	1,064	42,993
血液内科	507	23,402
脳神経内科	994	62,262
膠原病・リウマチ内科	450	49,449
救急科	69	3,747

上記表の入院患者についてDPC病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全70疾患群において充足可能であることが確認されました。

しかしながら、領域によっては、専攻医全員の症例を確保するのが困難であることから、連携施設での不足分を充足することで、修了要件を十分に満たすことが可能です。

- 4) 専攻医の3年間に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能。専門病院 施設、地域連携病院 施設および僻地における医療施設の1施設があり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。(未確定)

17. Subspecialty 領域 (P23～参照)

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 研修を視野に入れた内容で研修を行っていくことになります。

条件を満たせば Subspecialty の研修に比重を置く期間を設け重点的に研修する研修内容を変更することも可能です。また、内科と特定の Subspecialty を連動研修（平行研修）し、早期の Subspecialty 専門医を目指すことも可能です。

18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

[整備基準項目 33]

- 1) 専門研修における娠・出産・育児、疾病、その他の正当な理由による休止期間は最長 6 ヶ月とします。プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。不足がある場合は、復帰後に研修期間内の調整で不足分を補うこととします。原則として、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、6 か月を超えた休止日数分以上の研修を行うものとします。
その後も長期休止した場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。
留学期間は、原則として研修期間として認めておりません。
- 2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医 [整備基準項目:36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医になり、内科の専攻医を指導し、評価を行います。

最終的には以下の必須要件を満たすことを目指しますが、新しい内科専門医制度の内科指導医の要件を満たしていれば 2025 年まで指導医となることができます。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文(症例報告含む)を発表する(「first author」もしくは「corresponding. author」であること)、もしくは学位を有していること
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること

【選択とされる要件 (下記の 1、2 いずれかを満たすこと)】

1. CPC、CC、学術集会(医師会含む)などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動(病歴要約の査読、MECC のインストラクターなど)

※但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系サブスペシャルティ専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間(2026 年まで)においてのみ指導医と認めます。

◎新しい内科専門医制度の内科指導医の要件

内科指導医は下表の条件を満たした方が登録できます（2026 年で暫定措置が終了し、内科専門医資格が必須となります）。

	必要な条件	2026 年までの 暫定措置
認定資格	総合内科専門医	認定内科医
臨床経験年数	7 年以上(初期研修からカウント)	
業績発表	過去 5 年間で 3 篇以上あること (共著者・共同研究者でも可。商業誌は不可)	
その他	研修プログラムに参加している施設で常勤(就 4 日以上、週 32 時間以上の勤務)していること(勤務時間が十分であれば、雇用契約上は非常勤でも可)。	

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準 項目 41-48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床研修専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行います。

21. 研修に対するサイトビジット(訪問調査)[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導體制や研修内容について調査が行われます。その評価については、プログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行っていきます。

22. 専攻医の採用と修了[整備基準項目：52,53]

1)採用方法

順天堂大学内科専門研修プログラム管理委員会は、専攻医登録スケジュールに基づき、整備が整い次第、専攻医の応募を受付けます。

プログラムへの応募者は、各サブスペ担当責任者（医局長）等に連絡のうえ、所定の形式『順天堂大学内科専門研修プログラム応募申請書』を入手し、一式を提出下さい。

原則として書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。

応募者および選考結果については順天堂大学内科専門研修プログラム管理委員会にて報告のうえ、通知致します。

2)研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の 4 月 1 日までに以下の専攻医氏名報告書を、順天堂大学内科専門研修プログラム管理委員会(naikacha@juntendo.ac.jp)および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度
- ・専攻医の履歴書
- ・専攻医の初期研修修了証

3)研修の修了

全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- 1) 専門研修実績記録
- 2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- 3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- 4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあつた事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

23. 順天堂大学内科研修プログラム内容・施設詳細

順天堂大学内科専門研修プログラム

順天堂大学の研修プログラムは、各自の将来像に応じて as you like で研修のプログラム内容を組み立てていくものと、基本的に1プログラムで各入局先（Subspecialty）と相談のうえ、決定していくものとします。

具体的ないくつかのプログラムサンプルについて以下に表記します。

図 1 - 1 順天堂大学内科専門研修プログラム（基本プログラム）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	(内科1)			(内科2)			(内科3)			(内科4)		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	基幹病院											
	(内科5)			(内科6)			(内科7)			(内科8)		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	連携施設B						連携施設C（地域貢献：医師少数地区20%を含む）					
	(内科9)						(内科9)					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

図 1 - 2 順天堂大学内科専門研修プログラム（連携プログラム）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A											
	(内科1)		(内科2)		(内科3)		(内科4)		(内科5)		(内科6)	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設B						基幹病院					
	(内科7)		(内科8)		(内科9)		(内科1)					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	(内科1)											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

ローテーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・登録が必要な症例が充足するまでは、基本的に基幹病院（順天堂医院）および連携施設での研修は症例の不足している各内科を中心にローテーションします。 ・ローテーション先等については、初期研修医時の症例経験も考慮し、決定していくものとします。 ・シーリング対象地区のプログラムであるため、各プログラムには①基本プログラムとして全体で20%以上の地域貢献の医師少数地区の施設を研修、②連携プログラムとして、連携施設での研修で50%以上の研修が求められます。 ・各プログラム枠の条件、ならびに修了要件を満たすよう、研修施設、研修期間、順番等については、進捗状況および本人の希望等を踏まえ、担当指導医と相談して決定していくことになります。 ・ローテーションの期間は、基幹病院（順天堂医院）および連携施設共に現時点では最低1年間とします。 ・連携施設における1施設の研修期間は、3カ月からとし、ローテーション中は該当科の指導医が研修指導をします。 ・当直、外来については、ローテーション先の都合により開始時期、期間が異なります。 ・内科に必要な症例等が充足すれば、Subspecialty との平行研修が可能です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院入学は、このプログラムでどの学年からも受け入れ可能です。入局先（Subspecialty）を決めたうえで、担当指導医と相談のうえ詳細を決定していくことになります。

◆研修プログラム・モデル A

内科全領域・サブスペシャリティ平行研修～循環器内科をサブスペとした場合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	脳神経内科		消化器内科		膠原病・リウマチ内科		糖尿病・内分泌内科		呼吸器内科		血液内科	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	基幹病院											
	脳神経内科		腎・高血圧内科		循環器内科 (Subspecialty重点)							
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	連携施設B						連携施設C (地域貢献：医師少数地区20%を含む)					
	循環器内科 (Subspecialty重点)						循環器内科 (Subspecialty重点)					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

※入局先 (Subspecialty)に重点をおき、基幹施設である順天堂医院ならびに各連携施設で全ての内科をローテーションするサブスペシャリティ平行研修になります。

※各領域を研修することで、確実に症例を取得することが出来ます。各人の症例数の進捗状況により研修内容・Subspecialty 開始の時期が異なります。

◆研修プログラム・モデル B

全ての内科を研修、将来の subspecialty 領域が未定な場合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	呼吸器内科			消化器内科			総合診療科・救急			脳神経内科		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設											
	一般内科 (これまで経験のない領域を中心に研修を行う)											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	血液内科			腎・高血圧内科			循環器内科			膠原病・リウマチ内科		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

※高度な総合内科(generality)の専門医を目指す場合や、将来の Subspecialty が未定な場合および初期研修時に内科症例をあまり経験していない場合には、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的とし、内科専攻医研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。

◆研修プログラム・モデル C

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A											
	消化器内科		糖尿病・内分泌内科		循環器内科		血液内科		脳神経内科		呼吸器内科	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設A											
	救急科・感染症		膠原病・リウマチ内科		腎・高血圧内科							
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	腎・高血圧内科											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

※このモデルでは、連携施設は地域に特化した施設で、期間を長く設定することにより、より地域に特化した研修をすることが出来ます。

※各領域を研修することで、確実に症例を取得することが出来ます。各人の症例数の進捗状況により研修内容・Subspecialty 開始の時期が異なります。

各 Subspecialty 研修

総合診療専門医

総合診療科は、基本領域である総合診療専門医プログラムと内科プログラムに従い研修を行います。内科専門医のサブスペシャリティとしては感染症専門医研修を行います。本プログラムには、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する①感染症専門研修(内科)基本コースと、内科専門医研修期間中に感染症指導医の下で感染症領域を重点的または並行して行う②感染症専門研修(内科)特進コースがあります。両コースの概念図は以下のとおりです。

① 感染症専門研修(内科)基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			感染症専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			感染症専門 研修基幹施設	感染症専門 研修連携施設	感染症専門 研修基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			感染症専門医 試験受験/ 資格取得

② 感染症専門研修(内科)特進コース

例) 2年間重点研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			感染症専門研修	
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研修施設/ 感染症専門 基幹施設	内科専門 研修施設/ 感染症専門 連携施設	感染症専門 基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	感染症専門医試験受験/ 資格取得

例) 4年間並行研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			感染症専門研修	
施設	臨床研修施設		内科/感染症専門研修施設				
感染症 研修施設			感染症専門 基幹施設	感染症専門 連携施設	感染症専門 基幹施設	感染症専門 基幹施設	
資格取得							内科専門医試験受験/ 資格取得 感染症専門医試験受験/ 資格取得

③ 老年病専門医

当病院は日本老年病学会教育認定施設ですので、老年病専門医を取得することも可能です。

研修スケジュールの例

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			老年病専門研修3年以上		
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設					
内分泌 代謝科研修 施設					日本老年病学会教育認定施設			
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得		老年病専門医試験 受験/資格取得

循環器専門医

循環器内科は、日本循環器学会が規定する循環器専門研修モデルプログラムに従い、循環器専門研修を行います。

① 循環器専門研修（内科）基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			循環器内科専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			循環器内科 専門研修基幹 施設	循環器内科 専門研修基幹 施設	循環器内科 専門研修基幹 施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			循環器専門医 試験受験/ 資格取得

消化器病専門医

消化器病内科は、日本消化器病学会が規定する消化器病専門研修モデルプログラムに従い、消化器病専門研修を行います。本プログラムには、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する消化器病専門研修(内科)基本コースがあります。最短での専門医取得スケジュールの概念図は以下のとおりです。

① 消化器病専門研修（内科）コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
研修	臨床初期		内科専門医研修					
			消化器病専門研修					
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			消化器病専門研修 基幹施設		
資格取得						内科専門医試験 受験/資格取得	消化器病専門医 試験受験/資格 取得	
							消化器内視鏡専 門医試験受験/ 資格取得	
								肝臓専門医試験 受験/資格取得

呼吸器内科専門医

呼吸器内科は、日本呼吸器学会が規定する呼吸器専門研修モデルプログラムに従い、呼吸器専門研修を行います。業績として、呼吸器病学関係の論文 3 編および呼吸器関連学会での発表 3 編を含まなければならない。

臨床呼吸機能講習会の受講を必須とする。

非喫煙者でなければならない。

① 呼吸器専門研修（内科）標準コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			呼吸器内科専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			呼吸器内科専門 研修基幹施設	呼吸器内科 専門研修基 幹施設	呼吸器内科 専門研修基 幹施設	
資格取得						内科専門医試験 受験/資格取得			呼吸器専門医 試験受験/資格 取得

② 呼吸器専門連動研修（内科）コース

2年間連動研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設	内科専門 研修施設/呼 吸器専門認 定施設	内科専門 研修施設/ 呼吸器専門 認定施設	呼吸器専門認定 施設	
資格取得						内科専門医試験 受験/資格取得	呼吸器専門医 試験受験/資格 取得

腎臓病専門医

腎・高血圧内科は、日本腎臓学会が規定する専門研修プログラムに従い、腎臓病専門研修を行います。本プログラムには、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する①腎臓病専門研修(内科)基本コースと内科専門医研修期間中に腎臓病専門研修指導医の下で腎臓病領域を重点的または並行して行うコースがあります。両コースの概念図は以下のとおりです。但し、②、日本透析医学会専門医、日本高血圧学会専門医に関しては、暫定案であり、変更となる場合があります。

① 腎臓病専門研修(内科)基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			腎臓病専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			腎臓病認定施設			
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			腎臓病専門 試験受験/ 資格取得

② 腎臓病専門研修(内科)コース

2年間重点研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研 修施設/腎臓 病認定施設	内科専門 研 修施設/腎臓 病認定施設	腎臓病 認定施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	腎臓病専門医 試験受験/資格取得

日本透析医学会専門医

当病院は日本透析医学会認定施設ですので、透析専門医を取得することも可能です。

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設				
透析医学会 認定・教育 関連施設			日本透析医学会認定施設 (基本的には腎臓病認定施設と同一)				
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	透析医学会専門医 試験受験/資格取得

日本高血圧学会専門医

当病院は日本高血圧学会認定施設ですので、高血圧専門医を取得することも可能です。

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設				
透析医学会 認定・教育 関連施設			日本高血圧学会認定施設				
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	高血圧専門医試験受験/資格取得

膠原病専門医

膠原病内科では、①内科基本領域研修標準コース(満遍なく内科ローテ)、②Subspecialty(膠原病)重点研修コースを選択出来ます。Subspecialty 重点研修コースでは3年間で内科専門研修を修了する事を前提に、期間を設ける事なく膠原病内科研修を並行して行う事が可能です。

内科専門医の修了要件は160例の症例経験ですが、この半数にあたる80例を初期研修から取り込めるため、初期研修のうちに、修了要件となる56疾患群のうち、できるだけ多くの症例を経験すれば、卒後3年目以降早期に膠原病内科専門研修に重点を置いた研修を行うことが可能となります。初期研修修了時での疾患経験数は個人で差が出ると想定されるため、Subspecialty 専門研修期間は個別に設定する必要がありますが、リウマチ専門医(膠原病内科の資格は、日本リウマチ学会で定められているリウマチ専門医となります)の取得条件は、初期研修を含めず、専門医研修カリキュラムに従い通算3年以上の専門研修を修了することであり、最短でリウマチ専門受験資格を得るは卒後7年目となります。

①内科標準コース

医師経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
研修	初期研修		内科専門研修3年間 *3年間のうち、1年間は連携施設での膠原病研修期間あり。			膠原病 専門研修	膠原病 専門研修	膠原病 専門研修	膠原病 専門研修	
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			膠原病 基幹施設	膠原病 基幹施設	膠原病 基幹施設	膠原病 基幹施設	
資格取得						総合内科 専門医 受験資格			リウマチ 専門医 受験資格	

②膠原病重点コース

医師経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
研修	初期研修		内科研修・膠原病研修並行 開始・終了時期、期間は個別に設定 *3年間のうち、1年間は連携施設での膠原病研修期間あり。			膠原病 専門研修	膠原病 専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設 及び膠原病基幹施設			膠原病 基幹施設	膠原病 基幹施設			
資格取得						総合内科 専門医 受験資格	リウマチ 専門医 受験資格			

血液専門医

血液内科は、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する①血液専門研修(内科)基本コースと、内科専門医研修期間中に血液専門研修指導医の下で血液領域を重点的または並行して行う②血液専門研修(内科)特別コースの2つのプログラムがあります。両コースの概念図は以下のとおりです。それぞれの具体的な研修内容につきましては、希望を聞きながら、個別に相談して決めていきます。

① 血液専門研修（内科）基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			血液専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			血液学会認定 基幹施設	血液学会認定 基幹施設	血液学会認定 基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			血液専門医 試験受験/ 資格取得

② 血液専門研修（内科）特別コース

2年間重点研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研修施設/ 血液学会認 定基幹施設	内科専門 研修施設/ 血液学会認 定連携施設	血液学会認定 基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	血液専門医試験受験/資格取得

糖尿病専門医

糖尿病・内分泌内科は、日本糖尿病学会が規定する糖尿病専門研修モデルプログラムに従い、糖尿病専門研修を行います。本プログラムには、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する①糖尿病専門研修(内科)基本コースと、内科専門医研修期間中に糖尿病専門研修指導医の下で糖尿病領域を重点的または並行して行う②糖尿病専門研修(内科)特進コースがあります。両コースの概念図は以下のとおりです。

① 糖尿病専門研修（内科）基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			糖尿病専門研修			
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			糖尿病専門 研修基幹施設	糖尿病専門 研修連携施設	糖尿病専門 研修基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			糖尿病専門 試験受験/ 資格取得

② 糖尿病専門研修（内科）特進コース

2年間重点研修を行った場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研修施設/ 糖尿病基幹 施設	内科専門 研修施設/ 糖尿病連携 施設	糖尿病 基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	糖尿病専門試験受験/ 資格取得

神経内科専門医

脳神経内科は、新たな内科専門医制度の下、充実した神経内科専門研修を行えるよう十分な体制を整えております。本プログラムには、基本領域となる内科専門医を取得後に研修を開始する①神経内科専門研修(内科)基本コースと、内科専門医研修期間中に神経内科専門研修指導医の下で神経内科領域を重点的または並行して行う②神経内科専門研修(内科)特進コースがあります。両コースの概念図は以下のとおりです。我々は②のプログラムを推奨しています。また専門医研修コースの中には脳波、筋電図や神経超音波（頸動脈、経食道、経頭蓋、下肢静脈超音波など）の研修も含まれております。

① 神経内科専門研修（内科）基本コース

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
研修	臨床初期		内科専門医研修			神経内科専門研修			大学院
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設			神経内科専門 研修基幹施設	神経内科専門 研修連携施設	神経内科専門 研修基幹施設	
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得			神経内科専門 試験受験/ 資格取得

② 神経内科専門研修（内科）特進コース

2年間重点研修を行った場合の研修スケジュール（※内科研修のスケジュールによっては7年目で神経内科専門医試験資格取得できる可能性があります）

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目～7年目	8年目
研修	臨床初期		内科専門医研修				大学院
			神経内科専門研修			※	
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研修施設/ 神経内科基 幹施設	内科専門 研修施設/ 神経内科連 携施設	神経内科 基幹施設	神経内科 基幹施設
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得	神経内科専門試験受験/資格取得

4年間並行研修を行った場合の研修スケジュール（※内科専門医 or 神経内科専門医資格取得が6～7年目になる予定です）

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
研修	臨床初期		内科専門医研修 ※				大学院	
			神経内科専門研修 ※					
施設	臨床研修施設		内科専門研修施設					
神経内科 教育施設			神経内科 基幹施設	神経内科 連携施設	神経内科 基幹施設	神経内科 基幹施設	神経内科 基幹施設	
資格取得								内科専門医試験受験/資格取得 神経内科専門医試験受験/資格取得

脳卒中学会専門医

当病院は日本脳卒中学会認定研修教育施設ですので、脳卒中学会認定脳卒中専門医を取得することも可能です。

（※内科研修のスケジュールによっては、7年目で脳卒中専門医試験資格取得できる可能性があります）

初期臨床研修後に日本脳卒中学会に入会した場合の研修スケジュール

経験年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	
研修	臨床初期		内科専門医研修			神経内科専門研修 ※			大学院
						(兼) 脳卒中専門研修 ※			
施設	臨床研修施設		内科専門 研修施設	内科専門 研修施設/ 神経内科基 幹施設	内科専門 研修施設/ 神経内科連 携施設	神経内科 基幹施設	神経内科 基幹施設		
脳卒中学会 認定研修教 育施設				脳卒中学会 認定研修教 育施設	脳卒中学会 認定研修教 育施設	脳卒中学会認 定研修教育施 設	脳卒中学会認 定研修教育施 設		
資格取得						内科専門医 試験受験/ 資格取得		神経内科専門試験/資格取得 脳卒中専門医試験/資格取得	

順天堂大学の神経内科基幹病院/連携施設は脳卒中学会研修教育施設にも認定されています。

つまり、神経内科専門研修と脳卒中専門研修を同時並行で行えます。

2. 研修施設群の各施設名

施設分類	施設名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検症例数
基幹施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1,051	335	9	164	97	27
連携施設	順天堂大学医学部附属静岡病院	603	183	8	18	14	2
	順天堂大学医学部附属浦安病院	785	254	8	50	12	14
	順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター	404	150	8	7	7	6
	順天堂大学医学部附属練馬病院	490	151	9	52	10	8
	江東病院	286	134	8	14	14	2
	東部地域病院	314	112	3	18	4	0
	東京臨海病院	400	140	6	20	6	16
	越谷市病院	481	150	5	2	6	2
	がん研究会有明病院	700	235	14	30	16	10
	国立がん研究センター中央病院	578	280	9	46	29	28
	国立がん研究センター東病院	425	285	6	23	16	3
	国立国際医療研究センター病院	749	247	18	54	31	36
	国立病院機構相模原病院	458	226	8	21	17	18
	日本赤十字社医療センター	701	221	11	13	42	12
	JR 東京総合病院	448	120	7	15	16	12
	東京都立墨東病院	729	217	9	38	31	10
	榊原記念病院	307	232	1	18	13	1
	埼玉県済生会川口総合病院	424	143	8	20	15	15
	聖路加国際病院	520	160	12	55	44	30
	沖縄県立北部病院	327	99	5	3	3	3
	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	989	310	12	30	25	62
	亀田総合病院	917	521	13	40	24	24
公立岩瀬病院	279	80	7	2	2	1	
飯塚病院	1,048	477	18	21	46	12	
島田総合病院	185	100	5	1	1	0	
特別連携施設	順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院	地域医療として一般内科を研修					
	新島村国民健康保険診療所						
	JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院						
	朝日生命成人病研究所付属医院						

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
順天堂大学医学部附属順天堂医院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
順天堂大学医学部附属浦安病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附東京江東 高齢者医療センター	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
順天堂大学医学部附属練馬病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江東病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○
東部地域病院	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
東京臨海病院	△	○	○	×	○	△	○	×	○	△	△	△	×
越谷市病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	×	△	×	○	○	×	×	×	△	×
国立がん研究センター東病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	△	×
国立国際医療研究センター病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
国立病院機構相模原病院	△	△	△	×	△	△	○	△	△	○	△	△	△
日本赤十字社医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
JR 東京総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立墨東病院	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
榊原記念病院	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	○
埼玉県済生会川口総合病院	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
聖路加国際病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
沖縄県立北部病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
亀田総合病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
公立岩瀬病院	○	○	△	×	△	×	△	×	×	×	△	△	△
飯塚病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
島田総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
新島村国民健康保険診療所													
JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院													
朝日生命成人病研究所附属医院													

専門医研修施設群の構成

1) 基幹施設

◆ 順天堂大学医学部附属順天堂医院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ● 当院就業規則として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署（本郷・お茶の水キャンパス健康管理室）があります。 ● ハラスメントの対応とし、「本郷・御茶ノ水キャンパス ハラスメント相談窓口」として人事課、健康管理室の2つの窓口を設置しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所が用意されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 内科学会指導医は164名在籍しています。 ● 全領域の専門研修委員会が設置されているほか、内科統括責任者を中心とした内科専門研修プログラム管理委員会およびプログラム管理者（内科領域教授、総合内科専門医・各領域指導医より構成）を中心とした専門医研修プログラム委員会が設置されている。さらに、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置します。 ● 病院医療倫理委員会(11回)・医療安全管理委員会(12回)・感染対策講習会(2回)医療にかかわる安全管理のための職員研修(20回)を定期的で開催(2023年度実績)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 病院CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 各内科における地域参加型のカンファレンス・地域講演会のほか、順天堂医学会学術集会(2023年度実績年2回)医師会医学会等を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2023年度開催実績3回：受講者18名)を受講する機会を与えており、そのための時間的余裕を与えます。 ● 日本専門医機構による施設実地調査については、臨床研修管理委員会および臨床研修センターが対応します。 ● 特別連携施設の専門研修では、電話やメールでの面談・Web会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。

3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2021 年 29 体、2022 年 27 体、2023 年 28 体の実績）を行っています。
認定基準 【整備基準 23 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 病院倫理委員会を設置し、定期的開催(2023 年度実績 11 回)しています。 治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023 年度実績 10 回)しています。 学部倫理委員会を設置し、定期的開催(2023 年度実績 11 回)しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	綿田裕孝 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、それぞれの地域の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 大学病院として、質の高い内科医を育成するばかりでなく、各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療等を経験できます。一方で各附属病院や当院と関連のある教育病院において、より地域の特性に沿った医療を行うことも可能です。 主担当医として、外来診療や入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 多くの専門医指導医からの指導を受けるとともに大学病院の特質となる学生教育の一端を担うことで、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員として、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 164 名、日本内科学会総合内科専門医 97 名、日本消化器病学会専門医 34 名、日本肝臓学会専門医 20 名、日本循環器学会専門医 41 名、日本内分泌学会専門医 10 名、日本糖尿病学会専門医 27 名、日本腎臓学会専門医 13 名、日本呼吸器学会専門医 31 名、日本血液学会専門医 13 名、日本神経学会専門医 25 名、日本アレルギー学会専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 27 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本老年医学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 3 名、消化器内視鏡学会専門医 33 名、がん薬物療法専門医 4 名
外来・入院患者数	内科外来患者 37,799 名（1 ヶ月平均）、 内科入院患者 857 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 の症例を幅広く経験することができます。そのほかに大学病院ならではの希少な症例等幅広い症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	一般診療・急性期医療だけでなく、超高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療として、近郊の医療圏の病棟・病診連携施設等で訪問診療や外来診療や離島医療なども経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本アフェシス学会教育認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定教育施設 など</p>
-------------------------	--

2) 連携施設

◆順天堂大学医学部附属静岡病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度研修指定病院です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・研修に必要な図書室と、図書室内と研修室はインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されており、また敷地内に院内保育所を保有しています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が、17名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催しています。 ・内科症例検討会を毎月開催しています。 ・CPCを定期的に開催しています。(年間7回) ・院内では救急科による、ICLS(年3回開催)、JMECC(年1回開催)、ISLS(年1回開催)が開講され、受講できます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す13分野のうち、11分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・専門研修に必要な剖検(2021年度実績2体、2022年度10体)
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・日本内科学会地方会に年間で1演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>消化器内科科長 玄田 拓哉</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>静岡県東部の医療機関が少ない地域で、幅広い疾患について、専門的な治療を行える日本有数の病院です。特にドクターヘリは年間1000人以上(国内2-3位)の患者さんを収容し、高度な治療を行っています。</p> <p>学問や上下関係もなく、各科のコミュニケーションは良好で、年間20名以上の研修医とともに、日々高い技術を習得できます。</p> <p>また、学会発表や論文の執筆も盛んで、実績を積み重ねる良い機会です。</p>
<p>指導医数& 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会認定医(31名)、日本内科学会総合内科専門医(14名)、日本リウマチ学会専門医(4名)、日本消化器学会専門医(9名)、日本肝臓学会専門医(3名)、日本消化器内視鏡学会専門医(8名)、日本ヘリコプター学会ピロリ菌感染症認定医(1名)、日本呼吸器学会専門医(3名)、日本血液学会専門医(5名)、日本腎臓学会専門医(2名)、日本透析医学会専門医(2名)、日本糖尿病学会専門医(2名)、日本循環器学会専門医(6名)、日本心血管インターベンション学会認定医(5名)、日本神経学会専門医(4名) 他</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科外来患者 16,676名(1ヶ月平均)、内科入院患者 5,414名(1ヶ月延数)※2022年度実績</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>慢性疾患から救急患者まで、幅広く経験ができます。特に、ドクターヘリで静岡県東部の各地より急性心筋梗塞、急性心不全、急性腎不全、大動脈乖離、脳梗塞、脳出血などの患者さんが運ばれてきます。</p> <p>特に最近では高齢者が増加しており、認知症、パーキンソン病、等の患者さんも多</p>

	数来院されます。
経験できる技術・技能	稀な疾患を含めて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群に症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	静岡県東部は富士を含めると 120 万の人口を有し、伊豆半島、三島、沼津、御殿場、富士からも患者さんが来られます。いわば、静岡県東部の基幹病院となっています。診療連携は東部地域の各病院と緊密にとられています。
認定施設 (内科系)	<p>日本リウマチ学会認定施設</p> <p>日本リウマチ財団認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本循環器学会研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>植え込み型除細動器・両心室ペースメーカー植え込み認定施設</p> <p>日本神経学会教育施設</p>

◆順天堂大学医学部附属浦安病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・メンタルストレスに対する相談窓口として健康管理室があります。 ・研修に必要な図書館と図書館内と研修室はインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 50 名在籍しています。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（各年 4～5 回程度）しています。 ●臨床病理検討会(CPC)を定期的開催（2021 年度実績 6 回）します。 ●地域参加型のカンファレンスは領域ごとに参加しています。 ・ICLS を年 12 回開催していますので受講することができます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野において、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 日本内科学会地方会に年回で 1 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>森本 真司 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、中でも浦安病院は千葉県東葛南部地域の中心的な急性期基幹病院で、東京ディズニーランドからも近く、地域住民以外に国内外の旅行者も多く受診することが特徴で、救急医療にも力を入れております。また、千葉県内の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 本プログラムでは、大学病院の内科系診療科が千葉県内の病院と連携し、質の高い内科医を育成するものです。さらに各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療だけでなく地域に密着したプライマリーケアを中心とした医療等を経験することもできます。 担当医として、外来診療や、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 また、多くの専門医指導医が指導することで、単に内科医を養成するばかりでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員となることで、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。</p>
<p>指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 50 名, 日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 7 名, 日本内分泌学会専門医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本血液学会血液専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 5 名,</p>

	日本感染症学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本肝臓学会専門医 3 名, 日本不整脈神院学会 3 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 22,311 名(1ヶ月平均) 内科入院患者 9,443 名(延べ1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 疾患群項目表にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療の発展に力添えをするべく、浦安市並びに周辺地域の住民の為に良質の医療を提供する事に重点を置いています。また基幹病院として、医師会との病診連携や病病連携を密にし、地域医療ネットワークの要となるべく努力をしております。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本感染症学会連携研修施設 暫定指導医認定日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

◆順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●非常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は7名在籍しています(下記)。 ●内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績21回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC（臨床-病理検討会）を定期的開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ●地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、内科医会循環器研究会、内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会、関節リウマチ講演会など；2019年度実績10回以上）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち8分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ●専門研修に必要な剖検（2017年度実績5体、2018年度6体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的開催（2019年度実績3回）しています。 ●治験委員会を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2019年度実績10回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>梁広石</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p> <p>当院は城東地区の中心的な急性期病院であり、大学附属病院とで内科研修を行い、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します</p>
<p>指導医数& 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医7名、 日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医3名、 日本肝臓学会専門医1名 日本循環器学会循環器専門医2名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本神経学会神経内科専門医5名、 日本リウマチ学会専門医4名 ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 10,910 名（1 ヶ月平均）入院患者 275 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の内、きわめて稀な疾患と血液疾患以外の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

◆順天堂大学医学部附属練馬病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・垣根のない総合医局となっており、病院全体で人材を育てようとする風土のある教育的な雰囲気には満ち溢れています。 ・順天堂大学で初めて電子カルテを導入した病院であり、ペーパーレス、フィルムレスとなっています。また地域連携システムを導入し、順天堂医院や関連病院の患者情報を電子カルテで共有できます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが充実しており、医学生・臨床研修医・若手医師・指導医と屋根瓦教育を実践しております。 ・控室、個人ロッカー、PHS等を準備し、貸与いたします。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が41名在籍しています。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、全教職員に受講を義務付けています。（教員は、医療安全講習会：年4回以上、感染対策講習会：年2回以上）またそのための時間的余裕を与えます。 ・毎週月曜日の8:00～内科合同カンファレンスを開催し、各科の連携を図るとともに、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを年6回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが多数開催されます。（各科カンファレンス、各種勉強会、医学英語教育など）
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野において、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院では、熱意あふれる指導医のもと、充実した研修を行う事ができます。各科指導医の教育力・熱意には定評があり、どの研修病院にも負ける事はありません。</p> <p>本プログラムは初期臨床研修修了後に内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。</p> <p>当院のモットーでもある</p> <ul style="list-style-type: none"> ①Patient First-何より患者さんに優しく、謙虚に ②目があつたらまず笑顔-笑顔と挨拶、礼儀・接遇・マナー ③Enjoy training-皆さんが明るく楽しく働ける職場を創ります <p>この3つをテーマに掲げ、練馬区及び日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。</p>
<p>指導医数& 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 15名, 日本内科学会総合内科専門医 21名 日本消化器病学会消化器専門医 4名, 日本循環器学会循環器専門医 8名, 日本糖尿病学会専門医 3名,</p>

	<p>日本腎臓病学会専門医 4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名, 日本血液学会血液専門医 5名, 日本神経学会神経内科専門医 6名, 日本リウマチ学会専門医 2名, 日本肝臓学会専門医 3名, ほか</p>
外来・入院患者数	<p>内科外来患者 10,730名 (1ヶ月平均) 内科入院患者 4,649名 (1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>地域医療支援病院として、地域医療機関との医療連携に努めている他、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか</p>

◆江東病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署「心の相談室」（メンタルクリニックDr担当）があります。 ●ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●近隣に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は 15 名在籍しています（別紙）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：呼吸器内科内科部長）、プログラム管理者（各科部長）；専門医研修プログラム準備委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催（2021 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（江東区医師会医学会、江東地域救急搬送検会、江東フォーラム、腸疾患カンファレンス、JIM 等；2021 年度実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を積極的に勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検を行っています（2018 年度 3 体、2019 年度 2 体、2020 年度 0 体）。この数年は新型コロナウイルスの蔓延のため剖検数は減少していますが、2019 年までは年間 3 体～10 体の剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021 年度実績 6 回）しています。 ●治験コーディネイト室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 2 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>江東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とともに内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>

	<p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。</p>
<p>指導医数& 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科外来患者 8,766 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 265 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>認定施設 (内科系)</p>	<p>臨床研修病院厚生労働省指定 東京都災害拠点病院 日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 東京都脳卒中急性期医療機関 東京都感染症診療医療機関 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アフェレンス学会施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 など</p>

◆東部地域病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が4名在籍している(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(医療倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東部地域病院は東京都の城東地域の中心的な急性期病院であり、墨東病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医4名、日本内科学会総合内科専門医4名、日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本呼吸器学会専門医4名ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,369名(1ヶ月平均) 入院患者 287名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある4領域、10疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p> <p>日本消化器病学会教育関連施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p>

◆日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 東京臨海病院内科専門研修医として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は 14 名在籍しています（下記）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器内科部長；総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催（2014 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。現在、インストラクター養成中のため、2017 年度は順天堂大学附属順天堂医院で受講予定です。 ●日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ●専門研修に必要な剖検（22020 年度 9 体、2021 年度 11 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し，定期的に開催予定です。 ●治験委員会を設置し，開催しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>山田俊夫 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京臨海病院は，東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり，日本私立大学振興・共済事業団直営病院という性格から都内区中央部の順天堂大学附属順天堂医院、日本医科大学付属病院、西北部の日本大学板橋病院を連携病院として内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>

	<p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本老年学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 6,308 名 (1ヶ月平均) 入院患者 3,267 名 (1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会教育施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本肝臓学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本静脈栄養学会・NST 稼働認定施設 日本栄養療法推進協議会認定研修施設 など</p>

◆越谷市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室、インターネット環境があります。 ●メンタルストレスに対する相談窓口（院外相談員）があります。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は2名在籍しています。 ●内科専門研修プログラム管理委員会を設置する予定であり，基幹施設，連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（各年2回程度）しています。 ●臨床病理検討会(CPC)を定期的で開催（2021年度実績3回）します。 ●地域参加型のカンファレンスは領域ごとに参加しています。 ●JMECCを年1回開催する予定であり，専攻医にも希望に応じて参加機会を与える予定です。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70疾患群のうち血液内科を除く疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ●倫理委員会を設置し，定期的を開催しています。 ●治験管理室は委託業者に外注しており，委託業者にて治験審査委員会を実施しています。 ●各専門分野における講演会あるいは同地方会にてそれぞれ学会発表をしています。
指導責任者	<p>家永 浩樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は埼玉県東部地区の中心的な病院のひとつであり、順天堂医院を基幹施設とする連携病院です。</p> <p>急性期の受け入れを積極的に行っています。個々の入院患者さんの担当医として診療にあたる他、外来も担当することにより初診から終末期に至るまで一貫した研修を行えます。</p>
指導医数& 各科専門医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医2名，日本内科学会総合内科専門医6名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医6名，日本循環器学会循環器専門医4名，</p> <p>日本糖尿病学会専門医1名，日本腎臓病学会専門医0名，</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医3名，日本血液学会血液専門医0名，</p> <p>日本神経学会神経内科専門医4名，日本アレルギー学会専門医（内科）0名，</p> <p>日本リウマチ学会専門医0名，日本感染症学会専門医0名，</p> <p>日本内分泌学会専門医0名</p>
外来・入院患者数	<p>内科外来患者 6053名（1ヶ月平均）</p> <p>内科入院患者 204名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある症例を幅広く経験することができます（血液内科を除く）。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます（血液内科を除く）。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
認定施設	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院</p>

(内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会准教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
-------	--

◆公益財団法人 がん研究会有明病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（相談窓口）があります。 ●ハラスメントに対応する委員会が整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●近隣に複数の保育施設があります。また、福利厚生サービス（ベネフィットステーション）に加入しており、通常よりも割安に施設を探すことができます。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が 30 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（各複数回開催また研修開始時は必須）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、5 の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定していません。
指導責任者	照井康仁 【内科専攻医へのメッセージ】 当院はがん専門病院ですが、血液領域、消化器領域、呼吸器領域の悪性腫瘍のみならず、総合内科や感染症領域の研修が可能です。症例数が豊富であり、優秀な指導医も揃っていますので是非当院での研修を選択してください。
指導医数& 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 33,385 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 18,183 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、15 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設

日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

◆国立がん研究センター中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 国立研究開発法人非常勤医師として勤務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 監査・コンプライアンス室が国立研究開発法人に整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 内科学会指導医は 34 名在籍しています（下記）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的で開催（2015 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績地元医師会合同勉強会 1 回、多地点合同メディカル・カンファレンス 18 回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、血液および感染症の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 23 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。 倫理委員会を設置し、定期的に参加（2015 年度実績 12 回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に参加審査委員会を開催（2015 年度実績 24 回）しています。 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
<p>指導責任者</p>	<p>大江裕一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーに加え、在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。国立がん研究センター中央病院での研修を活かし、今後さらに重要性が増すがん診療を含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数& 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 34 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 13 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、</p>

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 9,651 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 665 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマーゼンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度修練施設 日本精神神経学会精神科専門医研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

◆国立がんセンター東病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究中核病院、及びがん診療連携拠点病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に宿舎があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が 17 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立がん研究センター東病院はがん診療の専門病院であり、連携施設としてがんの診断、治療の基礎から、緩和ケアを含む専門的医療を研修できます。呼吸器、消化器に関しては、内視鏡検査でも全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家指導できます。また臨床研究中核病院として、質の高い医療技術をいち早く患者さんに届けるため、最新の医薬品・医療機器の実用化を目指した臨床研究を行っており、臨床研究に携わる全医療者に対して倫理性、科学性に関する教育に力をいれています。</p>
<p>指導医数（常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 0 名、 日本内分泌学会専門医 0 名、日本糖尿病学会専門医 0 名、 日本腎臓病学会専門医 0 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>2018 年 外来患者総数 267,886 名（1 ヶ月平均 22,323 名） 入院患者総数 11,413 名</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある、総合内科Ⅲ（腫瘍）、消化器、呼吸器、血液の分野で、腫瘍疾患を中心に経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域と連携した医療，病診・病病連携なども経験できます</p>
<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など</p>

◆国立国際医療研究センター病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 • 国立研究開発法人非常勤医師として勤務環境が保障されています。 • メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部労務管理室長担当）があります。 • 「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」が定められており、ハラスメント防止対策委員会も院内に整備されています。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室などが整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 内科学会指導医は 54 名在籍しています（下記）。 • 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療科長）、プログラム管理者（診療医長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医療教育部を設置します。 • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 研修施設群合同カンファレンス(内科・総合診療科・救急)を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 地域参加型のカンファレンス（を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 • 日本専門医機構による施設実地調査に医療教育部門が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 • 専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 • 倫理委員会を設置し、定期的開催（年 16 回）しています。 • 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>放生雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 充実した卒後 2 年間の臨床研修を終え、内科専門研修に入る皆さんにとって、医師として成長する上でも専門医を目指す上でも専門研修の 3 年間は臨床研修の 2 年間以上に重要な期間と思われる。さらに多くの症例を経験し、深く学習し、種々の技術を習得するとともに、基幹施設である当院を離れて様々な役割を果たしている地域の医療機関で働くことは生涯の大きな財産となることでしょう。指導医の下ではあっても自分で判断し、行動し、ナショナルセンター、地域の病院、海外</p>

	の病院などで多彩な経験を積んで、立派な専門医となり、日本と世界の医療に貢献できる医師に成長して頂けたらと考えております。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 52 名, 日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会専門医 10 名, 日本肝臓学会専門医 4 名, 日本循環器学会専門医 8 名, 日本内分泌学会専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 3 名, 日本腎臓学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会専門医 9 名, 日本血液学会専門医 6 名, 日本神経学会専門医 3 名, 日本アレルギー学会専門医 4 名, 日本リウマチ学会専門医 6 名, 日本感染症学会専門医 9 名, 日本老年医学会専門医 0 名, 日本救急医学会専門医 7 名
外来・入院患者数	内科外来患者 36076 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 572 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 分野, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

	日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本ペインクリニック学会認定医資格指定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼働認定施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設認定 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	--

◆国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ● 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ● メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。 ● 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用 可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 内科指導医が 21 名在籍している。 ● 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催している（2020 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策についても年 2 回以上の開催をしている）。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ● 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ● CPC を定期的で開催（2021 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需しており、内科研修内に経験可能である。感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしている。
指導責任者	森田有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、 日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本透析学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）9 名、 日本リウマチ学会専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 5,919 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 333 名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を

	経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした 医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

◆日本赤十字社医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●日本赤十字社常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ●ハラスメント委員会が日本赤十字社医療センター内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。 ●敷地内に託児所があり，利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は 26 名在籍しています。 ●内科専門研修プログラム管理委員会によって，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（2018 年度予定）と臨床研修推進室を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的で開催（2015 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（渋谷区医師会日赤合同カンファレンス，循環器科渋谷区パス大会，循環器科渋谷区公開クルズス，東京循環器病研究会，城南呼吸器疾患研究会，城南気道疾患研究会，城南間質性肺炎研究会，渋谷目黒世田ヶ谷糖尿病カンファレンス，城南消化器検討会，東京肝癌局所治療研究会，都内肝臓臨床検討会，東京神奈川劇症肝炎研究会，消化器医療連携研究会，臨床に役立つ漢方勉強会，など）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 12 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ●日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修推進室が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検（実績：2014 年度 25 体，2015 年度 25 体/うち内科 9 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し，定期的で開催（2015 年度実績 11 回）しています。

4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 11 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	<p>池ノ内浩</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>日本赤十字社医療センターは日本赤十字社直属の総合病院であり、救急医療、がん治療、周産期を三本柱とする東京中心部の急性期病院です。救命救急センターにおける三次救急、二次救急には研修医の先生に積極的に参加していただいております。当院は癌拠点病院であり、外科治療はもちろん、サイバーナイフ治療、化学治療、そして緩和病棟と一貫した体制がとられ、各科が協力して、とくに内科と外科は密接に関係しながら治療にあたっています。当院は都内有数の周産期病院であり、年間 3000 件を超える出産があり、妊婦や婦人科に関連した疾患も内科において経験することが可能です。その他ほとんどすべての診療科を有し、多種多様な疾患、症例を経験することが可能となっています。スタッフは各分野のエキスパートであり、指導体制も確立しております。症例報告、各種学会発表、臨床研究、論文作成も積極的に行われております。これまで、当院で研修された数多くの諸先輩医師が各分野における日本の医療を支える立場で活躍しておられます。当院出身の先輩医師の皆さんは当院の出身であることに誇りを持ち、その経験を生かしつつ最前線で医療に携わっております。また、さらに経験を積んだうえで当院に戻られる先生方も多数おられます。新しい内科専門医制度の採用により、実際の症例件数や実技の修達度も明らかとなり、これまでより一層研修の質を向上させてくれることと思います。またさらには関連施設での一定期間の研修を組み入れることにより、一つの施設にとらわれない広い視野を持った医師の育成にも良い影響があると考えられます。当院のプログラムは、十分な症例経験、実技経験、地域医療や関連施設での研修を通して、これまで以上に日本の医療に貢献できる医師の育成に寄与すべく作成されております。少しでも多くの専攻医のみなさんが、当院のプログラムに参加されることを期待しております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 26 名，日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器病専門医 7 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名， 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名， 日本救急医学会救急科専門医 5 名 など</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 6,508 名（内科 1 ヶ月平均） 入院患者 14,968 名（内科 1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・ 診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など</p>

◆JR 東京総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・JR 東京総合病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 15 名在籍しています（下記）。 ・当施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会は、現行設置されている臨床研修委員会の中に盛り込むこととします。 ・内科専門研修プログラム委員会（統括責任者・血液腫瘍内科杉本部長、プログラム管理者・呼吸器内科山田部長）において、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・地域参加型カンファレンス（JR 東京総合病院・地域連携の会（2014 年度実績 1 回）、渋谷区医師会・JR 東京総合病院合同研修会（2014 年度実績 3 回））、JR・JCHO 呼吸器カンファレンス、新宿肺感染症研究会、新宿呼吸器研究会、新宿呼吸器放射線科カンファレンス、新宿循環器カンファレンス、メトロポリタン循環器内科臨床研修連絡会合同研修医セミナー、渋谷区医師会循環器パス勉強会、城南消化器検討会、城西消化器病研究会、東京山手メディカルセンター・JR 東京総合病院合同消化器症例検討会、JR 東京総合病院消化器セミナーなどを定期的で開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・年 1 回当院において JMECC プログラムを開催し、当院に所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に事務部総務課が対応しています。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくとも 9 割以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体、2014 年度 9 体）を行っています。
<p>認定基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。

<p>【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的を開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的を開催（2015 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>杉本耕一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>JR 東京総合病院は、新宿区と接する渋谷区代々木において地域医療の中心的な急性期病院であるとともに、東京都区西南部地域の近隣医療圏との連携により幅広い内科専門研修を行っています。学問的な裏付けに基づいた診療を行えるとともに個々の患者さんの必要や環境に応じた適切な医療を提供できる内科専門医の育成を行っています。</p> <p>主担当医として入院から退院までの診断・治療の流れを経時的に経験するとともに、外来および救急診療にも定期的に参加して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 15 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 16 名</p> <p>日本神経学会専門医 2 名（うち指導医 1 名）</p> <p>日本呼吸器学会専門医 6 名（うち指導医 2 名）</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医 4 名（うち指導医 3 名）</p> <p>日本循環器学会専門医 3 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 5 名（うち指導医 1 名）</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医 7 名（うち指導医 1 名）</p> <p>日本肝臓学会専門医 3 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 3 名（うち指導医 1 名）</p> <p>日本血液学会専門医 4 名（うち指導医 3 名）</p> <p>日本リウマチ学会専門医 2 名</p> <p>日本超音波医学会専門医 2 名（うち指導医 1 名）</p> <p>日本がん治療認定医機構がん治療認定医 9 名</p> <p>日本救急医学会専門医 1 名（うち指導医 1 名）</p> <p>ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 1,5171 名（1 日平均）（2015 年度実績）</p> <p>入院患者 315 名（1 日平均）（2015 年度実績）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 不整脈専門医研修施設制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床検査医学会認定研修病院 など</p>
-------------------------	---

◆東京都立墨東病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 38 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(基本：年 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に行う(基本：年 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会：基本：年 8 回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(基本：年 1 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。 ・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2020 年度実績 11 体)を行っている。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行う(2019 年度実績 12 回)している。 ・治験管理室を設置し、定期的に行う(2019 年度実績 12 回)している。

	<p>る。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている (2019 年度実績 8 演題)</p>
指導責任者	<p>藤ヶ崎 浩人</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>東京都立墨東病院は、東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都区東部医療圏・近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 38 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 8,943 名(1 ヶ月平均)入院患者 4,816 名(1 ヶ月平均)</p> <p>* 感染症科以外</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できます。</p>
認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライ・マリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設など</p>

◆ 榊原記念病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所病児保育があります。 ・病院 6 階に専攻医宿舎を完備しており、独身者であれば利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 18 名在籍しています。 ・循環器内科の研修では CCU、心臓カテーテル検査・治療 (PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療 (カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス (内科カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス)、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い (2020 年実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的に行い専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・定期的に行い、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています。卒後 3～6 年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2021 年度は 7 件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>七里 守 【内科専攻医へのメッセージ】 榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、東京医科歯科大学の内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い内科専門医の育成を行います。当院は開心術数が年間 1000 件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。指導医は心血管インターベンション、心不全、不整脈 (カテーテルアブレーション)、I CD やペースメーカー植え込み、心エコー、画像診断 (CT/ MR I/ 核医学)、心臓リハビリ、成人先天性心疾患など各領域の専門家がそろっており、循環器診療においてほぼす</p>

	すべての領域をカバーできます。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18名, 日本内科学会総合内科専門医 13名, 日本循環器学会専門医 29名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 4,101名 (1ヶ月平均) 内科入院患者 526名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定施設、日本内科学会認定教育関連特殊施設、日本核医学会認定専門医教育病院、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本動脈硬化学会専門医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医特殊修練機関、日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設(日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会)、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本脈管学会認定研修指定施設、日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本心臓血管麻酔科学会心臓血管麻酔専門医認定施設、左心耳閉鎖システム実施施設、経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設、潜在的脳梗塞に対する卵円公孔開存閉鎖術実施施設、経皮的動脈管閉鎖術施行実施施設、経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設、経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設、補助人工心臓治療関連学会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設、下肢静脈瘤に対する血管焼灼術の実施基準による実施施設、腹部ステントグラフト実施施設、胸部ステントグラフト実施施設、浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、等

◆埼玉県済生会川口総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員（嘱託職員）として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（心理相談室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。 ・希望者には宿舎（マンション）が利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 14 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 14 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>船崎 俊一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>埼玉県済生会川口総合病院は埼玉県南部医療圏の中心的な急性期病院であり、埼玉県および近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>
<p>指導医数 & 各科専門医数（常勤医）</p>	<p>日本内科学会総合内科専門 11 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本内分泌学会内分泌専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 ほか</p>

外来・入院患者数	内科外来延べ患者数 8,359名／月（2021年度） 内科入院患者総数 314名／月（2021年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、消化器・循環器・代謝・腎臓・救急などにおいては、幅広く症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会にも対応した地域に根ざした医療、病診連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度審議会認定教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

◆ 聖路加国際病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●聖路加国際病院内科専攻医として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメント委員会が聖路加国際病院に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●隣接する施設に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●総合内科専門医が 44 名在籍しています。 ●指導医が 55 名在籍しています。 ●内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で、定常的に専門研修が可能な症例数があり、70 疾患群のほぼ全疾患群の研修が可能です（連携は腎臓内科研修のみです）。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 1 演題以上（年間約 10 演題）の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>長浜 正彦 【内科専攻医へのメッセージ】 聖路加国際病院腎臓内科の研修の特徴は、臨床腎臓病学の全領域の知識・技術を習得すると同時に、患者を主体としたチーム医療を実践できる能力を養成することにあります。研修ならびに診療の対象は急性腎障害・電解質異常・腎炎・高血圧・慢性腎臓病・透析・移植など腎臓病全領域を網羅し、他科からのコンサルテーションも通して「General nephrologist」への育成を行います。また、腎臓病クリニックならびに透析室ではコメディカルなど多職種とのチーム医療を学び、リーダーとしての医師に求められる資質を発展させることができます。</p>
<p>指導医数 & 各科専門医数</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 3 名、日本腎臓学会専門医 5 名、日本透析学会専門医 4 名、日本臨床腎移植学会専門医 1 名、小児腎臓学会専門医 2 名ほか</p>

(常勤医)	
外来・入院患者数	内科外来患者 17371名(1ヶ月平均) 内科入院患者 511名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、腎臓内科においては幅広く症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	<p>日本アレルギー学会アレルギー専門医研修施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本血液学会血液研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設(ICU)</p> <p>日本消化器内視鏡学会 指導施設</p> <p>日本消化器病学会 認定施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設</p> <p>日本心身医学認定医制度研修診療施設(心療内科)</p> <p>日本神経学会専門医制度における教育関連施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設、日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会 認定研修施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>循環器専門医研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本脳神経血管内治療学会研修施設</p> <p>日本脳ドック学会 認定施設</p> <p>日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医研修施設</p> <p>日本不整脈学会・日本心電学会 不整脈専門医研修施設</p> <p>日本腹膜透析医学会(CAPD) 教育研修医療機関</p> <p>日本呼吸療法医学会 専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設</p> <p>非血縁者間骨髄採取認定施設</p> <p>非血縁者間造血幹細胞移植 認定診療科(血液内科・小児科)</p>

	日本心身医学会 研修診療施設（精神腫瘍科） 日本頭痛学会 教育関連施設 日本東洋医学会 研修施設指定 日本病態栄養学会 栄養管理・指導実施施設 日本甲状腺学会 認定専門医施設 など
--	---

◆沖縄県立北部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています（平成 27 年 5 月完成） 後期研修医 月額 1 万 7,000 円程度,1LDK ・沖縄県立病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医 3 名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	<p>平辻知也</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1-3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることになりますが、いずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診ることの出来る力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。</p>
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会総合内科専門医 3 名 ・循環器専門医 1 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 ・日本救急医学会救急科専門医 2 名 ・日本消化器病学会専門医 2 名
外来・入院患者数	<p>内科外来患者 1,504 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 219 名（1ヶ月平均） 実人数</p>
経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設
認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・研修医用に研修医宿舎を整備しています（平成 27 年 5 月完成） 後期研修医 月額 1 万 7,000 円程度,1LDK ・沖縄県立病院任期付常勤医師として労務環境が保障されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 3 名在籍しています。今後指導医は増やしていく予定です。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染症対策講習会を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	平辻知也 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、沖縄北部地域を医療圏とする 327 床の一般総合病院です。当院の特徴の一つとして、入院患者の 70%が救急外来からであること、1-3 次までのさまざまな急性期内科疾患を経験することができます。また当院には循環器内科、消化器内科、腎臓内科の専門分野があり、全科ローテートすることになりますが、いずれのグループにおいても、一般内科の診療をしながら、なおかつ専門分野の診療を行うというのが当院のスタンスです。急性期疾患、内科全般を診ることの出来る力をつけたい方にとっては、うってつけの病院です。
指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)	・日本内科学会総合内科専門医 3 名 ・循環器専門医 1 名 ・日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 ・日本救急医学会救急科専門医 2 名 ・日本消化器病学会専門医 2 名

外来・入院患者数	内科外来患者 1,504 名（1ヶ月平均） 内科入院患者 219 名（1ヶ月平均） 実人数
経験できる疾患群	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	・急性期医療だけでなく、超高齢者に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・循環器専門医研修関連施設 ・日本透析医学会教育関連施設 ・救急科専門医指定施設 ・日本救急医学会救急科専門医指定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本消化器病学会関連施設

◆ 総合病院国保旭中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●法人職員として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 ●ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が 30 名在籍しています。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2020 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 24 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的で開催（2020 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ●70 疾患群のうち全疾患群（少なくとも 60 以上の疾患群）について研修できます。 ●専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 62 体、2019 年度実績 71 体、2018 年度実績 71 体、2017 年度実績 89 体、2016 年度実績 80 体、2015 年度実績 89 体、2014 年度実績 80 体、2013 年度 90 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的で開催（2020 年度実績 6 回）しています。 ●治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2020 年度実績 8 回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 9 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>塩尻 俊明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。

	<p>●高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 40,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 300 床で年間約 8000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2020 年度は 62 体に及び、毎月 CPC が開催されています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 2 名、 日本老年病学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 13,642 名（1 ヶ月平均） 入院患者 681 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>J-Osler の疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>J-Osler にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設</p>

	日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	--

◆ 亀田総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書やインターネットの環境があります。 ● 亀田総合病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署（セルフケアサポートセンター）があります。 ● ハラスメント委員会が整備されています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるよう更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所、病児保育施設があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医が 40 名在籍しています。 ● 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的で開催（2019 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>小原 まみ子 【内科専攻医へのメッセージ】 実力ある骨太の内科医をめざしませんか？ 亀田総合病院は、房総半島南部の千葉県鴨川市にある急性期総合病院で、施設のある安房医療圏だけでなく、隣接する山武長生夷隅医療圏、君津医療圏にまでおよび、広範囲の急性期医療を担っています。救命救急センター三次指定病院・地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院などの機能を担う高次医療機関であると同時に、同地域が医療過疎の高度に進んだ地域であることから、第一線としての医療、地域包括ケア、在宅医療を含む地域に密着した一次医療および二次医療を直接担う病院としての使命も持ち機能しています。このため、一次医療から三次医療までシームレスな研修することができます。</p>
<p>指導医数 &</p>	<p>日本内科学会指導医 40 名，日本内科学会総合内科専門医 24 名，日本内分泌</p>

各科専門医数 (常勤医)	学会専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 10 名, 日本腎臓病学会専門医 7 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名, 日本血液学会血液専門医 3 名, 日本神経学会神経内科専門医 5 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 60,104 名(1ヶ月平均),入院患者 1,813 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設(免疫アレルギー科・呼吸器アレルギー科) 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本東洋医学会指定研修施設(教育病院) 日本透析医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定施設 日本内分泌・甲状腺外科学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設

◆公立岩瀬病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が 2 名在籍している。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(医療倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ●CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与える。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>大谷弘 【内科専攻医へのメッセージ】 公立岩瀬病院は福島県須賀川市に位置する地域の中核病院であり、順天堂大学医学部附属順天堂医院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p>
<p>指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 2 名、日本内科学会総合内科専門医 2 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>内科外来患者 2,248 名 (1 ヶ月平均) 内科入院患者 135 名 (1 ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある総合内科・消化器領域の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>

<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>認定施設 (内科系)</p>	<p>臨床研修病院厚生労働省指定 地域包括医療・ケア認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会関連施設 日本肝臓学会関連施設 (ほか)</p>

◆株式会社麻生 飯塚病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN, Wi-Fi）があります。 ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医は 15 名在籍しています（下記）。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2018 年実績 医療倫理 4 回、医療安全 24 回、感染対策 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的で開催（2014 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2017 年実績 73 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 45 以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります
指導責任者	<p>増本 陽秀</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。</p> <p>専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。</p>
指導医数 (常勤医) 2017年度実績	<p>日本内科学会指導医 18名、日本内科学会総合内科専門医 40名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 13名、日本循環器学会循環器専門医 11名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 3名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 11名、日本血液学会血液専門医 3名</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 3名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1名</p> <p>日本リウマチ学会リウマチ専門医 5名、日本感染症学会専門医 1名ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 8,805名 (1ヶ月平均) 入院患者 1,504名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会 教育病院</p> <p>日本救急医学会 救急科指定施設</p> <p>日本消化器病学会 認定施設</p> <p>日本循環器学会 研修施設</p> <p>日本呼吸器学会 認定施設</p> <p>日本血液学会 研修施設</p> <p>日本糖尿病学会 認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会 研修施設</p> <p>日本肝臓学会 認定施設</p> <p>日本神経学会 教育施設</p> <p>日本リウマチ学会 教育施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会 研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会 指導施設</p>

	<p>日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・穎田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など</p>
--	--

◆医療法人積仁会 島田総合病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修協力施設です。 地域医療研修として年間約 70 名の研修医受け入れ ・病院付属の保育所があります。 ・医師寮があります。 ・研修に必要なインターネット環境があります。(院内及び医師寮) ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (総務部人事課職員担当) があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 4 名在籍しています。(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催 (2021 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹病院等で定期的開催される CPC 等への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>内田伸平 【内科専攻医へのメッセージ】 島田総合病院は、千葉県の香取海浜地域、銚子市において 85 年の歴史があり、地域に密着した 2 次医療機関として医療を提供しています。 高齢化率が高い過疎の地域である銚子地域唯一の急性期病院として、サブアキュート、ポストアキュート、在宅医療の機能を有し、幅広く総合的な医療を提供し、地域の急性期から回復期までの医療を担っています。</p>
<p>指導医数 & 各科専門医数 (常勤医)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合内科専門医 1 名 ・循環器専門医 2 名 ・消化器内視鏡専門医 1 名

	・消化器病専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 200 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を 36 経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅 広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・腹部ステントグラフト実施施設 ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設 ・日本脈管学会認定研修指定施設

特別連携施設

◆順天堂越谷病院、◆新島村国民健康保険診療所、◆石井病院、◆中伊豆温泉病院

年次到達目標

別表

内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数	
分 野	総合内科I(一般)	1	1※2	1		2	
	総合内科II(高齢者)	1	1※2	1			
	総合内科III(腫瘍)	1	1※2	1			
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上			3
	内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上			
	腎臓	7	4以上※2	4以上			2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
	血液	3	2以上※2	2以上			2
	神経	9	5以上※2	5以上			2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
	膠原病	2	1以上※2	1以上			1
	感染症	4	2以上※2	2以上			2
	救急	4	4※2	4以上			2
	外科紹介症例					2	
	剖検症例					1	
	合計 ※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3	
	症例数 ※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上		

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。
病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
- ※4 「内分泌」と「代謝」からは、それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例) 「内分泌」2例 + 「代謝」1例、 「内分泌」1例 + 「代謝」2例
- ※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。

2025 年度

新専門医制度 内科領域プログラム

順天堂大学内科研修プログラム内科専攻医研修マニュアル



順天堂大学 内科

順天堂大学内科研修プログラム内科専攻医研修マニュアル

1. 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 内科専門医となるべく、内科領域の専門を養成するプログラムに沿って、各研修施設にて内科領域全般にわたる研修を通じて、標準かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を習得することを目的とします。
- 2) 適切な診療と診断をもって一定の内科症例を経験し、かつ医師としての倫理観と安全に関する知識を有し、内科全般にわたる標準的な知識と技術を習得した、チーム医療の重要な一員として全人的な診療にあたることのできる医師と定義されます。
- 3) 専門内科の領域は多岐にわたっているが、臓器別の専門性に著しく偏ることなく、全人的な医療を幅広い、最新の医療を提供することです。本プログラムでは専攻医が有する専門医像を下記のごとく想定して、それぞれに応じて役割を果たすことができるよう研修プロセスが考案されています。
- 4) 各自の将来に適したコースを選択し、不足している症例を経験できる研修内容を検討の上、以下の研修施設群より希望先を決定していきます。
- 5) また、大学病院としての機能を有するため、専門研修と並行して、大学院への進学も可能であり、研究を行いながら臨床経験を継続することも可能です。
- 6) 同時に教育の観点から学生・初期研修医等の下級医師等への教育も上級医師と一緒にいき、指導についても学習するものとします。

2. 専門研修の期間

内科専攻医は2年間の初期臨床研修修了後に設けられた専攻医研修(後期研修)3年間の研修になります。

3. 研修施設群の各施設名

施設分類	施設名	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検症例数
基幹施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1,051	335	9	164	97	27
連携施設	順天堂大学医学部附属静岡病院	603	183	8	18	14	2
	順天堂大学医学部附属浦安病院	785	254	8	50	12	14
	順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター	404	150	8	7	7	6
	順天堂大学医学部附属練馬病院	490	151	9	52	10	8
	江東病院	286	134	8	14	14	2
	東部地域病院	314	112	3	18	4	0
	東京臨海病院	400	140	6	20	6	16
	越谷市病院	481	150	5	2	6	2
	がん研究会有明病院	700	235	14	30	16	10
	国立がん研究センター中央病院	578	280	9	46	29	28
	国立がん研究センター東病院	425	285	6	23	16	3
	国立国際医療研究センター病院	749	247	18	54	31	36
	国立病院機構相模原病院	458	226	8	21	17	18
	日本赤十字社医療センター	701	221	11	13	42	12
	JR 東京総合病院	448	120	7	15	16	12
	東京都立墨東病院	729	217	9	38	31	10
	榊原記念病院	307	232	1	18	13	1
	埼玉県済生会川口総合病院	424	143	8	20	15	15
	聖路加国際病院	520	160	12	55	44	30
	沖縄県立北部病院	327	99	5	3	3	3
	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	989	310	12	30	25	62
	亀田総合病院	917	521	13	40	24	24
公立岩瀬病院	279	80	7	2	2	1	
飯塚病院	1,048	477	18	21	46	12	
島田総合病院	185	100	5	1	1	0	
特別連携施設	順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院	地域医療として一般内科を研修					
	新島村国民健康保険診療所						
	JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院						
	朝日生命成人病研究所付属医院						

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
順天堂大学医学部附属順天堂医院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
順天堂大学医学部附属浦安病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附東京江東 高齢者医療センター	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
順天堂大学医学部附属練馬病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江東病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○
東部地域病院	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
東京臨海病院	△	○	○	×	○	△	○	×	○	△	△	△	×
越谷市病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
がん研究会有明病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
国立がん研究センター中央病院	△	○	△	×	△	×	○	○	×	×	×	△	×
国立がん研究センター東病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	△	×
国立国際医療研究センター病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
国立病院機構相模原病院	△	△	△	×	△	△	○	△	△	○	△	△	△
日本赤十字社医療センター	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
JR 東京総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立墨東病院	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
榊原記念病院	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	×	△	○
埼玉県済生会川口総合病院	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
聖路加国際病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
沖縄県立北部病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
亀田総合病院	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
公立岩瀬病院	○	○	△	×	△	×	△	×	×	×	△	△	△
飯塚病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
島田総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
新島村国民健康保険診療所													
JA 静岡厚生連 中伊豆温泉病院													
朝日生命成人病研究所附属医院													

4. プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を順天堂大学医学部に設置し、その委員長と各内科から1名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括していきます。

順天堂大学プログラム委員会・委員一覧

担当者	役割	備考
綿田 裕孝	プログラム統括責任者・委員	代謝・内分泌分野責任者
今 一義	プログラム副統括責任者・委員	消化器分野担当
横山 美帆	プログラム副統括責任者・委員	循環器分野担当
南野 徹	プログラム管理委員会・委員	循環器分野責任者
伊佐山 浩通	プログラム管理委員会・委員	消化器分野責任者
永原 章仁	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当
池嶋 健一	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当
高橋 和久	プログラム管理委員会・委員	呼吸器・アレルギー分野責任者
鈴木 祐介	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野責任者
田村 直人	プログラム統括責任者・委員	膠原病分野責任者
安藤 美樹	プログラム管理委員会・委員	血液分野責任者
服部 信孝	プログラム管理委員会・委員	神経分野責任者
内藤 俊夫	プログラム管理委員会・委員	総合内科・感染症分野責任者
林 英守	プログラム管理委員会・委員	循環器分野担当、医局長
深田 浩大	プログラム管理委員会・委員	消化器分野担当、医局長
佐藤 匡	プログラム管理委員会・委員	呼吸器・アレルギー分野担当、医局長
合田 朋仁	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野担当、医局長
木原 正夫	プログラム管理委員会・委員	腎臓分野担当、副医局長
箕輪 健太郎	プログラム管理委員会・委員	膠原病分野担当、医局長
築根 豊	プログラム管理委員会・委員	血液分野担当、医局長
池田 富貴	プログラム管理委員会・委員	内分泌・代謝分野担当、医局長
常深 泰司	プログラム管理委員会・委員	神経分野担当、医局長
齋田 瑞恵	プログラム管理委員会・委員	総合内科・感染症分野担当、医局長
飯田 雅	研修委員長	代謝・内分泌分野担当

連携施設担当者

担当者	役割	備考
玄田 拓哉	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属静岡病院
森本 真司	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属浦安病院
梁 広石	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属東京江東高齢者医療センター
下 泰司	連携施設 管理委員会・委員	順天堂大学医学部附属練馬病院
藤井 充弘	連携施設 管理委員会・委員	江東病院
鈴木 聡子	連携施設 管理委員会・委員	東部地域病院
山田 俊夫	連携施設 管理委員会・委員	東京臨海病院
家永 浩樹	連携施設 管理委員会・委員	越谷市病院
高野 利実	連携施設 管理委員会・委員	がん研究会有明病院
大江 裕一郎	連携施設 管理委員会・委員	国立がん研究センター中央病院
内藤 陽一	連携施設 管理委員会・委員	国立がん研究センター東病院
放生 雅章	連携施設 管理委員会・委員	国立国際医療研究センター病院
上出 庸介	連携施設 管理委員会・委員	国立病院機構相模原病院
出雲 雄大	連携施設 管理委員会・委員	日本赤十字社医療センター
杉本 耕一	連携施設 管理委員会・委員	JR 東京総合病院
藤ヶ崎 浩人	連携施設 管理委員会・委員	東京都立墨東病院
細谷 弓子	連携施設 管理委員会・委員	榊原記念病院
船崎 俊一	連携施設 管理委員会・委員	埼玉県済生会川口総合病院
長浜 正彦	連携施設 管理委員会・委員	聖路加国際病院
星野 慎一	連携施設 管理委員会・委員	沖縄県立北部病院
上野 博則	連携施設 管理委員会・委員	国立病院機構東京医療センター
塩尻 俊明	連携施設 管理委員会・委員	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
小原 まみ子	連携施設 管理委員会・委員	亀田総合病院
大谷 弘	連携施設 管理委員会・委員	公立岩瀬病院
井村 洋	連携施設 管理委員会・委員	株式会社 麻生 飯塚病院
嶋田 一成	連携施設 管理委員会・委員	医療法人積仁会 島田総合病院

2) その他の委員会

履修すべ内科専攻医の修了要件において、調整等の必要と思われる案件が生じた場合は、それに対応する委員会をプログラム管理委員会のもと、適宜設置し適用に応じた担当者を配置するものとします。

◆内科専門医連絡会（J-OSLER 関連担当）設置

3) 指導医一覧

J-OSLER 参照

5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて研修することが可能なプログラムとなっており、専攻医は原則各内科に所属し、ローテーションします。

将来の Subspecialty が決定している場合は、各自のビジョンに合わせて、研修内容を選択することになります。

Subspecialty が未決定、または総合内科専門医を目指す場合には、附属病院や連携施設において地域医療等を中心に研修することも可能ですが、基幹施設である順天堂医院において最低 1 年間の研修が必要です。

また、連携施設においては、基幹病院では経験しにくい領域や地域医療に即した臨床を経験し、学ぶこととなります。

どのような研修内容を選択した場合でも、具体的な研修施設や研修内容については、年度毎に確認をし、指導医等の上級医師と相談のうえ最終決定します。

図 1-1 順天堂大学内科専門研修プログラム（基本プログラム）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	(内科1)			(内科2)			(内科3)			(内科4)		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	基幹病院											
	(内科5)			(内科6)			(内科7)			(内科8)		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	連携施設B						連携施設C（地域貢献：医師少数地区20%を含む）					
	(内科9)						(内科9)					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

図 1-2 順天堂大学内科専門研修プログラム（連携プログラム）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A											
	(内科1)		(内科2)		(内科3)		(内科4)		(内科5)		(内科6)	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設B						基幹病院					
	(内科7)		(内科8)		(内科9)		(内科1)					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	(内科1)											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

ローテーションについて	<ul style="list-style-type: none"> 登録が必要な症例が充足するまでは、基本的に基幹病院（順天堂医院）および連携施設での研修は症例の不足している各内科を中心にローテーションします。 ローテーション先等については、初期研修医時の症例経験も考慮し、決定していくものとします。 シーリング対象地区のプログラムであるため、各プログラムには①基本プログラムとして全体で 20%以上の地域貢献の医師少数地区の施設を研修、②連携プログラムとして、連携施設での研修で 50%以上の研修が求められます。 各プログラム枠の条件、ならびに修了要件を満たすよう、研修施設、研修期間、順番等については、進捗状況および本人の希望等を踏まえ、担当指導医と相談して決定していくこととなります。 ローテーションの期間は、基幹病院（順天堂医院）および連携施設共に現時点では最低 1 年間とします。 連携施設における 1 施設の研修期間は、3 カ月からとし、ローテーション中は該科の指導医が研修指導をします。 当直、外来については、ローテーション先の都合により開始時期、期間がことなります。 内科に必要な症例等が充足すれば、Subspecialty との平行研修が可能です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院入学は、このプログラムでどの学年からも受け入れ可能です。入局先（Subspecialty）を決めたうえで、担当指導医と相談のうえ詳細を決定していくこととなります。

6. 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

内科専門医研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については、順天堂大学医学部附属順天堂医院（基幹病院）において、各内科診療科における疾患群別の入院患者数（2023年度）を調査し、ほぼ全ての疾患群が充足されることが調査済みです。

研修期間内に全疾患群が経験できるようこれまでの実績もあり、指導医体制が整えられています。また、初期研修時での症例について、専攻医研修開始の際に登録するよう指導を行っています。

7. 基準に示す年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

1) モデルプログラム A：将来の subspecialty 領域が決定している場合

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修することを希望する場合、不足している症例を中心に各内科をローテーションします。研修3年間の間には連携施設における研修を1年以上行います。

なお、当該 Subspecialty 科においても内科研修を継続し Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験するものとします。重点研修は最長で1年間とします。

大学病院への進学も可能とし、大学院へ進学の場合、研究に重点をおく期間が必要とされます。しかしながら、経験すべき修了要件はいずれの場合も同様であるため、開始時に相応の経験を積んでいることを条件とするため、専攻医と希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議してスケジュールを決定するものとします。

なお、ローテーションの順番および時期、研修する連携施設等の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定していくものとします。

◆研修プログラム・モデル A

内科全領域・サブスペシャリティ平行研修～循環器内科をサブスペとした場合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	脳神経内科		消化器内科		膠原病・リウマチ内科		糖尿病・内分泌内科		呼吸器内科		血液内科	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	基幹病院											
	脳神経内科		腎・高血圧内科		循環器内科（Subspecialty重点）							
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	連携施設B						連携施設C（地域貢献：医師少数地区20%を含む）					
	循環器内科（Subspecialty重点）						循環器内科（Subspecialty重点）					
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

※入局先（Subspecialty）に重点をおき、基幹施設である順天堂医院ならびに各連携施設で全ての内科をローテーションするサブスペシャリティ平行研修になります。

※各領域を研修することで、確実に症例を取得することが出来ます。各人の症例数の進捗状況により研修内容・Subspecialty 開始の時期が異なります。

2) モデルプログラム B：全ての内科を研修、将来の subspecialty 領域が未定な場合

高度な総合内科(generality)の専門医を目指す場合や、将来の Subspecialty が未定な場合および初期研修時に内科症例をあまり経験していない場合には、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的とし、内科専攻医研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。

原則として3年間のうち1年以上は、連携施設で地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。将来の Subspecialty として診療科等の興味のある場合は、単位を延長して研修を延長することも可能です。

研修する連携施設や時期、研修内容の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

◆研修プログラム・モデル B

subspecialty が未定、経験が不足している等のため、全ての内科の研修を行い、将来の subspecialty を決定

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹病院											
	呼吸器内科			消化器内科			総合診療科・救急			脳神経内科		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設											
	一般内科（これまで経験のない領域を中心に研修を行う）											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	血液内科			腎・高血圧内科			循環器内科			膠原病・リウマチ内科		
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

3) モデルプログラム C：連携施設中心に研修を行う場合

希望する Subspecialty は決定しているが、地域医療を通じて、総合内科医として必要な知識や経験していく研修を希望する場合、附属病院等の連携施設を中心に研修することが可能です。

そのため、連携施設での研修期間を多くしますが、最低 1 年間は基幹病院での研修を行うものとします。それぞれの施設で十分な指導体制を敷いているため、専門研修修了に必要な症例を経験することができます。研修する連携施設や時期、研修内容の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定していくものとします。

◆研修プログラム・モデル C

連携施設は地域に特化した施設で、期間を長く設定することにより、より地域に特化した研修をすることが出来ます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A											
	消化器内科		糖尿病・内分泌内科		循環器内科		血液内科		脳神経内科		呼吸器内科	
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
2年目	連携施設A											
	救急科・感染症		膠原病・リウマチ内科		腎・高血圧内科							
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											
3年目	基幹病院											
	腎・高血圧内科											
	医療安全・感染症・医療倫理講習会等年2回の受講、JECC講習会、CPCの受講、学会参加等											

※各領域を研修することで、確実に症例を取得することが出来ます。各人の症例数の進捗状況により研修内容・Subspecialty 開始の時期が異なります。

8. 評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

内科専門研修評価については、1 年間に複数回の評価を行います。1 年間に複数の施設に在籍する場合は、各施設での指導医がそれを行うこととなります。また、専攻医の評価については、無記名方式で統括責任者が各施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼します。

一方で、日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス等については、常にフィードバックできるシステムを構築します。

通常の指導医の他に各専攻医に 1 名の指導医がつき、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を定期的に持ちます。

また、現行の専攻医研修プログラムの見直しのため、毎年 3 月アンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考にしていきます。なお、アンケート用紙は別途定めます。

2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。

また、技術・技能についての評価も行い、上級医師は、専攻医がプログラム修了に必要な要件を遂行できるよう適宜対応致します。

年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医、メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行ってきます。毎年、指導医とメディカルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。日本内科学会専攻医登録評価システム(仮称)に以下のすべてが登録されていることが条件となります。

- ① 主担当医としてカリキュラムに定める全 70 疾患群のすべてを経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標とします。
- ② 但し修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録しなければなりません。
- ③ 所定の受理された 29 編の病歴要約
- ④ 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- ⑤ JMECC 受講
- ⑥ プログラムで定める講習会受講

指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適正に疑問がないこと基準に最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

10. 専門医申請にむけての手順

専門医申請については、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録していきます。具体的な入力手順等については内科学会 HP から“専攻研修のための手引きを”ダウンロードして参照してください。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例:CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、順天常大学の専攻医就業規則及び給与規則に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と健康管理室等で管理していきます。

特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は校医によるカウンセリングを行い、専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることになります。

プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

専門研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件

- ① 専門研修における休止期間は最長 6 ヶ月とします。
- ② 妊娠・出産・育児、疾病その他の正当な理由による休止期間が 6 ヶ月を超える場合、専攻医研修修了時に未修了扱いとします。原則として、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、6 ヶ月を超えた休止日数分以上の研修を行うものとします。
- ③ 大学院(研究専任)や留学などを専攻研修中に取り入れた場合の扱いについては、例外規定とします。
- ④ 専門研修プログラムの移動は原則認めません。ただし、結婚、出産、疾病、親族の介護、その他正当な理由などで同一プログラムでの専門研修継続が困難となった場合で、専攻医からの申し出があった場合については、承認があれば、他の専門研修プログラム移動することが可能です。
- ⑤ 症例経験基準を満たしていない場合にも未修了として扱い、原則として引き続き同一の専門研修プログラムで当該専攻医の研修を行い、不足する経験基準以上の研修を行うことが必要です。
- ⑥ その他の理由により休止、中断・プログラム移動、プログラム外研修にあたる案件が生じた場合は、速やかに検討対応し、最終的に日本専門医機構が判断を仰ぐものとします。

12. プログラムの特色

本プログラムでは、専攻医の将来像に合わせて as you like で研修内容等を指導医等と相談して決めることができるのが最大の特徴です。更に多くの連携施設を擁し、研修内容についても、各人の症例の進捗状況や将来を見据えた内容で所属長等と相談の上、決定していくことが可能です。なお、条件を満たせば将来性に応じて内容の変更も認められるようになっています。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

基本領域である 13 の Subspecialty 領域について、内科専攻医研修の到達基準を早目に満たすことができる場合は研修施設の状況に応じて、内科専攻医研修と並行して自分の希望する Subspecialty 領域に重点を置いた研修を行うことが可能です。この場合、指導医は適切なアドバイスやサポートを行うよう体制が整えてきます。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

研修委員会が主体となり、専攻医に対して、指導医評価および専攻研修内容に関するアンケート調査を年数回行うものとします。指導医評価については、指導医の資質向上に役立てるようフィードバックするものとします。

さらに毎年 3 月には、現行のプログラムに関するアンケート調査を各指導医と専攻医の双方からのプログラムに対しての専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集します。

研修プロセスの進行具合や全ての専攻医からの評価および各方面からの意見をもとに問題点を明確にし、毎年、研修プログラム管理委員会を年 1 回以上開催し、次年度のプログラム全体を見直すこととします。なお、使用するアンケート用紙は別途定めるものとします。

また、専門医機構によるサイトビジット(ピアレビュー)に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に努めていくものとします。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談し、対応していきます。

年次到達目標

別表

内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数
分 野	総合内科I(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科II(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科III(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4以上		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計 ※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3
	症例数 ※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。

病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からは、それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例)「内分泌」2例 + 「代謝」1例、 「内分泌」1例 + 「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。

2025 年度

新専門医制度 内科領域プログラム

順天堂大学内科研修プログラム内科指導医マニュアル



順天堂大学 内科

順天堂大学内科研修プログラム内科指導医マニュアル

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 順天堂大学内科専門研修プログラム委員会により各内科を研修の際に、専攻医 1 名に対し、1 人の担当指導医が決定されます。
 - 担当指導医は、担当専攻医が web にて日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をし、この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行っていくことになります。
 - 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、その都度、評価・承認します。
 - 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターおよび管理課からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。
- 各内科の研修開始前に専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談し、担当指導医と subspecialty の上級医は、ローテーションする専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるように主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識・技能の評価を行います。
 - 担当指導医は、専攻医が専門研修(専攻医)2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成できるよう指導していきます。また、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。

2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科領域の専門研修プログラム整備基準に基づいた別表の「内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
- 担当指導医は、所属先および臨床研修センターおよび管理課と協働して、各内科での研修終了時および定期的に専攻医登録評価システム(J-OSLER)にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による専攻医登録評価システム(J-OSLER)への記入を促し指導していきます。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は、該当疾患の診療経験を促していきます。
- 担当指導医は、所属先および臨床研修センターおよび管理課と協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は、該当疾患の診療経験を促していくことになります。
- 担当指導医は、所属先および臨床研修センターおよび管理課と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

- 担当指導医は、所属先と臨床研修センターおよび管理課と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的評価を行います。

さらに 2 回日以降は、以前の評価についての省察と改善が図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促していきます。

3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリーの作成内容などを査閲していきます。主担当医として適切な診療を行っているかと第三者が判断することができる場合のものを合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っているか認められない場合は、不合格として担当指導医は専攻医に専攻医登録評価システム(J-OSLER)での当該症例登録の削除、修正などを指導していきます。

4. 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 評価システムは①担当指導医による専攻医の評価、②メディカルスタッフによる 360 度評価、③専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 病歴要約全 29 症例については、専攻医が作成・登録を行い、担当指導医が校閲したうえで、適切と認めたものを承認します。
- 専門研修施設群とは、別の日本内科学会病歴要約評価ボード(J-OSLER)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認していきます。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録については、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握する臨床研修センターおよび管理課担当指導医と所属先が中心となり、その進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム(Online system for Standardized Log of Evaluation and Registration of specialty training System)を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いた指導医の指導状況把握

- 専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いた無記名式逆評価の集計結果を担当指導医、施設の研修委員会およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、順天堂大内科専門研修プログラムや指導医体制および研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6. 指導に難渋する専攻医の扱い

- 専攻医研修期間中に指導に難渋する専攻医がいた場合は、必要に応じて、臨時(毎年 8 月と 2 月とに予定の他に)で日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を行います。その結果を基に順天堂大学内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みる状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行い対応していきます。

7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

- 順天堂大学病院給与規定に準拠します。

8. FD 講習の出席義務

- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
- 指導者研修(FD)の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

- 内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の「J-OSLER 病歴要約作成の手引き」、「J-OSLER 病歴要約評価の手引き」を熟読し、形式的に指導していきます。

10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

- 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11. その他

- 特になし

各年次到達目標

別表

内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数	
分 野	総合内科I(一般)	1	1※2	1		2	
	総合内科II(高齢者)	1	1※2	1			
	総合内科III(腫瘍)	1	1※2	1			
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上			3
	内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上			
	腎臓	7	4以上※2	4以上			2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
	血液	3	2以上※2	2以上			2
	神経	9	5以上※2	5以上			2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
	膠原病	2	1以上※2	1以上			1
	感染症	4	2以上※2	2以上			2
	救急	4	4※2	4以上			2
	外科紹介症例					2	
	剖検症例					1	
	合計 ※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3	
	症例数 ※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。

病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からは、それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例 + 「代謝」1例、 「内分泌」1例 + 「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。